平成 30 年度

上宮太子中学校･高等学校

学校評価関係

1．規定
2．各部署の年間計画及び重点目標
3．各部署の中間報告
4．各部署の総括
5．授業アンケート分析
6．学校評価に関する報告書
7．学校関係者評価に関する報告書

上宮太子中学校・高等学校　学校評価に関する規定

平成 23 年 3 月 17 日　制定

(趣旨)
第 1 条　この規定は、学校教育法施行規則第 66 条及び第 67 条に基づき、学校法人上宮学園が設置する上宮太子中学校・高等学校における教育活動その他学校運営状況に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)
第 2 条　学校法人上宮学園が設置する上宮太子中学校・高等学校（以下「学校」という。）が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき成果やそれに向けた取り組みの目標を策定し、その達成状況を検証かつ評価することにより改善を図り、学校教育の質的向上に資するために必要な事項を定めるものとする。

(学校評価)
第 3 条　学校評価は、自ら行う自己評価ならびに保護者及びその他の関係者が、学校の自己評価の結果を踏まえて評価する学校関係者評価とする。

第 4 条　自己評価の改善方策の実施のため、学校に学校評価委員会を設置する。
2　学校評価委員会は、自己評価及び学校関係者評価の計画・立案・進行管理・改善策及び結果の公表を行う。

(学校評価委員会)
第 5 条　学校は、第 3 条に定める自己評価のため、学校長、学校参事、教頭、事務長、学校評価主任、学校評価担当を委員とする学校評価委員会を設置する。
2　学校長は、委員長として学校評価委員会を主宰する。学校評価主任は、委員長を補佐し学校評価委員会の会務を推進する。

(自己評価項目)
第 6 条　学校における学校評価委員会は、学校の教育目標に基づき、長・中期及び単年度の重点目標並びに教育活動その他の学校運営に係る評価領域・項目を定める。
2　自己評価を実施するについては、生徒による授業評価、生徒及び保護者に対する学校評価外部アンケートの調査結果も活用する。

(学校関係者評価)
第 7 条　学校における学校関係者評価委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。人数は 5 名程度とする。
(1)　保護者会役員の中から学校長が委嘱する委員
(2)　学校卒業生の中から学校長が委嘱する委員
(3)　その他、必要に応じて学校が選出する委員
2　委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。
3　学校における学校関係者評価委員会に委員長を置く。
4　学校における学校関係者評価委員会の委員長は、当該学校関係者評価委員会の会務を総理する。
5　学校における学校関係者評価委員会は、学校の学校運営の改善に資するための必要な助言を付して、自己評価に対する検証結果を学校長に報告する。
6　学校における学校関係者評価委員会が必要と認めたときは、第 7 条第 1 項各号に定める委員以外の者を出席させ、意見を聞くことができる。
7　委員は、その職務に関して知り得た個人情報の内容をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に利用してはならない。その職を退いた後も同様とする。

(評価結果の報告)
第 8 条　学校評価委員会の委員長は、自己評価及び学校関係者の評価結果と今後の改善方策をまとめ、学園の理事会(理事長)に提出するものとする。

(評価結果の公開)
第 9 条　学校評価委員会の委員長は、自己評価及び学校関係者の評価結果の一部を、ホームページ等で外部に公開するものとする。
(事務の所管)
第 10 条　この規定に関する事務は、学校の学校評価委員会が行う。

附則
この規定は、平成 23 年 3 月 18 日から施行する。

平成 30 年度
学校評価に関する
各部署の重点目標

上宮太子中学校・高等学校

部署名	教務部	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

（１）教務運営システムの整備・効率化

（２）有効な指導体系の継続検討

（３）上宮学園中学校との連携検討

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
（１）教務運営システムの整備・効率化 ①行事の着実な実施と改良 ※入念な準備，実施要項作成 ※実施資料（改善点等記録含）の整理・保存 ・次年度への引継ぎ ②教務各係の業務内容と資料の点検・整備 ③教務内規の精査・改定・整備 ※確定規定の明文化と職員周知 ④各部署との連携強化による業務効率化 （２）有効な指導体系の継続検討 ⑤カリキュラム改良の検討 ⑥シラバス改良の検討 （３）上宮学園中学校との連携検討 ⑦校外学習・球技大会等連携行事の検討			

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	生　徒　指　導　部	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

生徒相談	悩みをもつ生徒が、楽しく学校生活が送れるようにする。 １教職員への啓発・発信　　２スクールカウンセラーと教職員との連携
生徒会	１生徒会活動の活性化　　２委員会活動の活性化 ３広報活動　　４生徒会活動の研究
生活指導	１生徒指導の推進と問題行動の予防強化　２道徳意識，規範意識の向上 ３いじめ・不登校，配慮を要する生徒への取り組み　４生徒の愛校心向上

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
生徒相談 １．研修会への参加、そして報告。 「不登校を考える会」等からの資料プリントの配布。 ２．カウンセリング希望者との日程・時間等の予約の調整。 カウンセリングを受けた生徒（保護者）の状況を把握。 スクールカウンセラーによる教職員への研修会開催。 **生徒会** １．生徒が主体的に動ける行事の運営・学校づくり　（体育大会・上宮祭運営、生徒議会の開催、規範意識の向上等） ２．委員会活動の活性化 ３．広報活動（上宮太子ニュース・説明会・地域行事参加） ４．クラブ生を主体とした学校の活性化 **生活指導** １．教員による一律指導を目指し、実践内容を改訂・明確化 大阪私学連盟で得た情報を校内に生かす取り組みの実施 ２．始業式・終業式・御忌式の際、全校生徒に指導，説諭 生徒心得遵守を促す取り組み実施・生徒自治会との連携 ３．「いじめ防止基本方針」・「行動計画」を改定・明確化 不登校，配慮を要する生徒の把握と適宜の対応を検討 ４．「学校の活気を高揚する取り組み」の実践継続 生徒自治会役員生徒の意見反映 〔そ の 他〕 新入生対象企画「保護者から生徒への手紙」を提案、実施			

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	進路指導部	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

生徒の希望進路実現のため、愚公移山の一念で次の各項目に取り組む
　Ⅰ．学力向上
　Ⅱ．戦略的改革

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
Ⅰ．学力向上 ａ．読書指導推進 ｂ．家庭学習推進 ｃ．模試の事前・事後指導（レビュー）、結果分析 ｄ．Classi を活用したメタ認知力の育成 Ⅱ．戦略的改革 ｅ．生産性の高い進路指導体制構築 ｆ．大学入試制度改革の研究と啓蒙 ｇ．アクティブラーニングの研究と啓蒙			

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	入試対策部	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

（１）高校入試における受験者数安定・増加のための活動
（２）上宮学園中学校の広報活動
（３）情報の収集・共有化
（４）今後に向けての対応策検討

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
（１）高校入試における受験者数安定・増加のための活動 私学無償化の改正や公立校の入試制度改革、少子化の影響もあり、高校受験者も減少してきている。公立中学校において、上宮太子が広く認知され、受験者数を安定・増加させるための活動を強化する。 ①公立中学校や塾などへの訪問回数を増やす。 ②出張授業や学校訪問などの受け入れ態勢を強化する。 ③公立中学校を通し、イベント告知を重点地域の生徒全員に行う。 **（２）上宮学園中学校の広報活動** 平成３０年度入試より、上宮中学校と上宮太子中学校を統合し、上宮学園中学校として募集を行う。これまで培ってきた両校の教育内容を集中し、さらに発展させるためである。広報においても上宮と協力体制をとりながら、募集活動を展開していく。 **（３）情報の収集・共有化** 受験情勢や社会の動向、各校の動きなど入試の現場は刻一刻と変化している。その変化に学校全体での対応が円滑にできるために、情報収集と情報の共有化を図りうる環境を整える。 **（４）今後に向けての対応策検討** 少子化、就学支援金支給の動向、公立校の入試制度改革など、私立校を取り囲む状況は今後一層厳しいものになる。入試広報の側面から、将来を見据えた対応策を検討する。			

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	国　語　科	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

１．　授業改革による生徒の読解力・表現力の向上
２．　各学年の学習指導計画をより充実させるための研究（特に高１学年の教育方法の改革）
３．　受験対応力向上へ向けたアプローチ（大学入試問題の研究を含む）
４．　教員の研修活動への参加、フィードバック、記述講座（教員のスキルアップ）

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
１、　授業改革による生徒の読解力・表現力の向上 ①　生徒の学習定着をはかるための方策研究 ②　読解トレーニングと読解力向上への取り組み ③　職員同士での国語力向上についての意見交換 ２、　各学年での学習指導内容の研究 ①　模擬試験・大学入試問題等を使用して生徒の到達度を確認 ②　特進コース →センター、国公立の大学入試に即応できる実力養成 ③　総合進学コース →推薦入試への対応　小論文対策 →公募制推薦・一般入試に向けた対策　学習指導内容の改善 ④　高１学年の新入試制度に向けた授業改革 ３、　受験対応力向上へ向けたアプローチ ①　各学年における講習の充実 ②　教材や指導法における受験対応力強化の工夫 ③　授業中小テストの導入による継続的な基礎力向上への取り組み ③　国公立大学・難関私立大学の出題研究 ４、　教員の研修活動への参加、教科へのフィードバック ①予備校・大学主催の研修会やその他の学習会への積極的な参加 →入試の現状把握、教員のスキルアップ ②　教科への研修活動のフィードバック →教科会での参加活動報告、または勉強会開催 ③「論理ｴﾝｼﾞﾝ講座」「記述講座」「新入試制度研究」 をはじめ、教科内の教員による勉強会実施			

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	社会科	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

(1)授業の厳正化と社会科としての強化
(2)教科会の活性化
(3)入試問題の研究（本校入試問題及び大学入試問題）

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1)①「立腰」から始まる授業に集中できる雰囲気づくりをする。 ②社会科の授業が好きになる工夫をする。 ③中３生においては、高校入試で３ヵ年の成績を上回る。 ④高校において、特進コースは平均偏差値 60 以上、総合進学コースは平均偏差値 50 以上をめざす。 ⑤授業アンケートを意識した授業を実施し、総合評価で 80％を上回る。 ⑥社会科に関する研修会などへの積極的な参加。 ⑦高校３年生における社会科を入試で捨てさせない意識付け。 (2)①教科会の可能な限りの実施と科目間の連携。 ②授業見学会実施 ③思考力・判断力・表現力を意識した、新課程研究を始める。 (3)①大学入試制度改革に向けた上宮太子高校の入試問題にふさわしい内容にするための研究。 ②大学入試センター試験、難関私立大学等の入試問題を研究し、高得点につながる科目担当者による研究。			

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	数学科	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

１．授業の厳正化
２．数学力の向上
３．教科会の活性化
４．研修への参加

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
１．授業の厳正化 ・個々のより深い教材研究と教材の共有 ・研究授業の実施 ・各コースの特性を見据えた指導計画と実践 ２．数学力の向上 ・家庭学習定着のための内容・量の適正化と推進 ・各学年の偏差値２ポイントアップを目指した模擬試験対策およびやり直しの徹底 ・能力に応じた補習、講習の実施 ・大学入試問題の研究・研修と生徒への還元 ・特進コースの国公立大合格率向上 （最後まで目標を持って諦めさせない） ・総合進学コースの一般入試合格率向上 （指定校・AO 入試に頼らず、一般入試まで頑張らせる） ３．教科会の活性化 ・連絡の徹底と教科内の共通認識 ・教科における情報交換と研修 ４．研修への参加 ・アクティブラーニングや ICT についての研修を受け、学んだことを教科会で検討し、導入していく。			

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	理　　科	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

昨年度までの目標から継続し、以下の２つを重点目標とする。 ①　指導力を向上し、授業内容を充実する。 ②　大学入試に対応できる学力をつけさせる。

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①　指導力を向上し、授業内容を充実する a　実験や観察を多く取り入れ（特に中学）、興味・関心を高め、科学的自然観を養う。また、指導方法を教科内で共有する。 b　可能な限り多くの理科教員が研究授業を実施し、これをもとに教科会で意見交流を行う。 c　進研模試や関西国公立、関関同立などの入試問題研究を行い、教科内で情報を共有する方法を研究する。 d　ＩＣＴを用いた授業について研究し、新課程研究を進める。 ②　大学入試に対応できる学力をつけさせる e　生徒の実情に合わせた補講習・単元テストを適宜実施し、学力向上につなげる。 f　「やり直しノート」を作成・提出させ、復習の重要性を意識させる指導を徹底する。また、課題の与え方について検討する。			

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	英語科	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

1 年間で総合進学は進研模試で 2 ポイント、特進は 4 ポイントＵＰ

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①英語学力の向上 ・予習を確認するためのノートチェックを週に１回以上 （特進は毎時間実施） ・１セクション後に小テスト実施による復習の定着 （特進は毎時間実施） ・授業中の音読指導 ・辞書と参考書の積極活用 ・英検受験の奨励 （特進は全員２級取得を目標に） ②成果に繋がる指導法の研究 ・教員間の授業を積極的に見学 ・校外の研修会に参加			

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	保健体育科	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

・集団行動を通じて、社会生活に適応できる姿勢・礼儀などを習得する。
・各種スポーツを通じて、技能向上と体力作り・協調性を習得する。
・デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践できるようにしていく。

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
時間を守る 授業開始時間に遅れない 集団行動の様式の習得と実践（静と動） 挨拶・姿勢・集解散・方向変換・ラジオ体操 服装を正す 忘れ物を無くす・腰パン・半袖シャツを出さない・体操帽着用 各種目の技術習得 個人技能と集団技能 運動することの必要性、大切さ 生活習慣と生涯健康の関わりを理解する 各種目のルールの理解 ゲームの運営・ルール習得 ＩＣＴの導入 デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践 心肺蘇生法の習得 胸骨圧迫・AED 使用方法			

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	芸術科	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

１．表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。
２．評価、評定の方法について協議する。
３．行事への協力、取り組み。

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
１. 表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。 ①表現力を伸ばすための基礎技術の指導、および基本的な知識をつける。 ・音楽　演奏（器楽、声楽）の基本技術の指導。 音楽史の学習。 ・美術　絵画表現（描写、着彩）と立体表現の指導。 美術史の学習。 ・書道　楷書、行書における用筆法の指導。 書道史の学習。 ②中学の音楽・美術においては、期末考査の実施について再検討する ２. 評価、評定の方法について協議する。 ①平常点の割合の研究、分析等を行う。 ３. 行事への協力、取り組み。 ①聖徳書道展への協力。 ②芸能鑑賞等、教務部との連携。			

３．今後取り組む内容(3 学期　終業式)

部署名	技術家庭科	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成30年度の重点目標（4月末）

① 技術・家庭科に対する学習意欲の向上
② 実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度を育成
③ 男女共同参画社会を意識した教育推進
④ 教材の整備
⑤ 実践的授業の実施計画

２．平成30年度の取り組み内容（4月末　年度末評価は3学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①技術・家庭科に対する学習意欲の向上 ・授業プリントの内容を深め、関連した資料や情報を添付する。 （本物志向の展開：本物を見て触らせる） ・未提出者等は催促し、必ず提出させる。 ・他教科との連携を図った授業を展開する。 **②実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度を育成** ・ものづくりの体験的活動を通して、家族の人間関係や家庭の機能を理解させる。 ・生活に必要な基礎的・基本的な知識・技術を身につけさせ、生活を工夫し創造する能力を育成する。 **③男女共同参画社会を意識した教育推進** ・男女共に協力し、助け合えるよう自立を促す。 **④教材の整備** ・環境に配慮して主体的に生活を営む能力を育てるため、自ら課題を見いだし展開できる問題解決的な教材を検討する。 ・情報化や科学技術の進展に対応し、生活と技術との関わり、情報手段の活用内容の充実を図る。 **⑤実践的授業の実施計画** ・ものづくりは行程が重要であるため、構想の表示から設計・製図、材料・工具の研究、製作、仕上げを、計画的に実施する。 ・全ての実習に於いて、「安全面」「備品管理」を徹底する。			

３．今後取り組む内容（3学期終業式）

部署名	情報科	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成30年度の重点目標（4月末）

①　より良い授業内容にするための検討 ②　PC教室の活用の促進 ③　大学入試制度改革に関する情報収集

２．平成30年度の取り組み内容（4月末　年度末評価は3学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①　より良い授業内容にするための検討 ・　学習効果の高い実習課題の検討 ・　座学で扱う内容の再構成 ・　授業展開の再構成 ②　PC教室の活用の促進 ・　他教科におけるPC教室のより良い運営用法の検討 ・　放課後等でのPC教室の開放 ③　大学入試制度改革に関する情報収集 ・　「情報科」大学入試導入に関する情報収集 ・　「情報科」大学入試導入に関する研修会への積極的参加			

３．今後取り組む内容（3学期終業式）

部署名	宗教科	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

① 校訓、学順の理解
② 授業内容のさらなる充実
③ 宗教行事の理解と実践

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① 校訓、学順の理解 （１）　授業を通じて「挨拶」の実践を徹底する。 （２）　礼儀作法について学習、実践をする。 ② 授業内容のさらなる充実 （１）　授業開始時の一枚起請文奉読を徹底する。 （２）　生徒の理解に適した授業を展開する。 ③ 宗教行事の理解と実践 （１）授業において宗教行事の由来、意義を学習する。 （２）生徒参加による宗教行事の実践をする。			

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	中学２年	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

①正思明行に基づいたけじめある学校生活を身につける。
②基本的な生活習慣を身につける。
③チャレンジ精神を育む。
④基礎学力の定着。

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①　１に掃除、２に勤行、３に学問の考えをもとに挨拶、掃除を大切にし、授業では集中して話を聞くことを指導する。 ②　授業教材等の忘れ物がないように前日から用意し、朝は朝食を食べて、余裕をもって登校できるように指導する。特に、スマホやタブレットの普及により夜更かしする生徒が増えているので規則正しい生活を送るように保護者の方と協力する。 ③　中学時代は様々なことにチャレンジすることで大きく成長できる。勉強だけでなく、部活、生徒会活動、ボランティア活動など幅広く興味を持たせ、それらにチャレンジさせる。また、失敗しても生徒たちがお互い励まし合い、次のことに更なるチャレンジができるように環境作りを心がける。 ④　宿題は必ず提出期限を守って提出させることを目指し、また予習→授業→復習のサイクルの大切さを伝え、生徒が実践できるように指導する。			

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	中学３年	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

①　基本的な生活習慣の確立（遅刻欠席などをしない）
②　高校へ向けての学力の確立
③　新しい大学入試制度に対応できる学力の向上を目指す
④　補習・講習を効率的に活用する
⑤　よりよい人間関係を築く

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①　遅刻・欠席が多いと学習にも大きく影響する。自ら基本的な生活習慣をしっかり身に付け、リズム感のある生活を送り、学力の向上を目指す。 ②　生徒の中には、基本的な事項が理解できていないことが多い。高校へ向けて基本的な問題などを繰り返し取り組ませる。 ③　特進コースでは、まず学力推移調査での高得点を目指す。そして、新しい大学入試制度に対応できる力を身に着けられるよう実戦問題や課外学習に多く取り組ませる。 ④　放課後の時間を有効に活用し、学習環境を整える。ただし、生徒への過剰負担にならないように配慮する。 ⑤　中学最終学年であることを自覚し、相手の事をまず第一に考えることができる人柄を形成する。			

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	高　１　学　年	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

①早い段階から将来の夢・希望を持たせ、目標を持って学習に励ませる。 ②生徒・保護者・教員との密接な連携をとりながら、基本的生活習慣の確立と家庭学習を定着させる。 ③協調性（コミュニケーション能力）・自主性・責任感を育てる行事を取り組む。 ④サプリやClassi を活用することで、振り返りや考える力を養う。

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①進路ＬＨＲ・大学見学会・夢ナビ・適性検査などの実施により将来の夢・希望・進路・職業について考える機会を与える。 ・スタディーサポート、模試などを真剣に受けさせ、やり直しを徹底することで実力をつける。 ・英検（目標準２級）合格のために、早朝テスト・放課後の講習・教科の授業内小テストなどを利用する。 ②随時、生徒との二者面談をし、日々生徒の様子を把握して、常に保護者と連絡を密にする。 ・基本的生活習慣を身につけさせる。 （挨拶、服装、頭髪、言葉遣いなど） ・授業開始に立腰と黙想をきっちりすることで心を落ち着かせ、授業に対して真剣に取り組む姿勢を作る。 ・自学習の習慣を身につけさせ、家庭でも毎日机に向かって、復習・予習を自主的にできるようにする。 ・担任団のみならず、学年担当者、教科担当者との連絡を密にして、情報を共有し、全員が同じ方向性で指導にあたり、生徒の夢・希望を応援する。 ③上宮祭、体育大会、学年行事に於いて、個人・各クラスの積極的な参加を促し、責任感と協調性を養う。 ④学校行事や、クラブ活動、校外活動、個人で行った行動・活動に対して、常に振り返りを意識させ、次にどうするかを考えさせることで、自主性を身につけさせる。			

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	高２学年	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

(1)校訓「正思明行」・学順の実践とメリハリのある行事企画
(2)生徒・保護者・教員の意思疎通
(3)特に英語・国語・数学を意識した学力向上のための方策と学習習慣の確立
【目標：国公立大学（25 名以上)、関関同立（実数 10 名以上)、産近甲龍（述べ数 100 名以上)】
(4)担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1)①法然上人の教え・校訓「正思明行」・学順を意識した生徒指導 ②メリハリのある行事企画と充実 ③思い出に残る修学旅行の企画と充実 ④学年企画による校外学習の実施 ⑤前向きな上宮祭への取り組み (2)①家庭と学校との綿密な連携 ②効果的なＬＨＲや学年集会の実施 (3)①『立腰』で授業を始めることによる落ち着いた環境づくり ②競争することを意識した学習への取り組み ③毎日の家庭での学習の習慣の確立 ④定期考査前の補習の実施 ※総合進学コースの目標 ①良き生活習慣の確立 ②模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値５０を目指す。 ③高２終了段階で英語検定３級の全員合格、準２級の３割合格を目指す。 ④学習定着タイムの有効活用 ※特進コースの目標 ①良き生活習慣の確立 ②模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値５０を下回らないこと。そして、全国偏差値６０以上を目指す。 ③高２終了段階で英語検定準２級の全員合格、２級の５割合格を目指す。 (4)①学年担当者会議の可能な限りの実施 ②日常の会話による生徒の情報交換			

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	高３学年	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成30年度の重点目標（4月末）

(1)生徒一人一人が、前向きに受験を意識できる学年作りの実践
(2)生徒・保護者・教員の綿密な意思疎通
(3)国公立大・関関同立・産近甲龍の数値目標達成に向けた戦略的進学指導
(4)学習面・生活面における、担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通

２．平成30年度の取り組み内容（4月末　年度末評価は3学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1)①日々の中で受験を意識する生徒指導 ②決してあきらめず前向きに取り組める集団作り (2)①家庭と学校との綿密な連携 ②効果的なＬＨＲや学年集会の実施 ③生徒・担任間での懇談等による情報交換 (3)①『立腰』による落ち着いた環境づくり ②競争することを意識した学習への取り組み ③自習室利用の推奨、ｽﾀﾃﾞｨｻﾌﾟﾘ利用の推奨など、自発的学習意欲を育てる戦略的意識付け ④『受験は団体戦』であることの共有 ⑤目標達成のための教員の受験制度研究 全体として、国公立大２２、関関同立３０、産近甲龍７５の数値目標以上の合格数達成 (4)①学年担当者会議の可能な限りの実施 ②日常の会話による生徒の情報交換 ③学年団として一致した生徒への働きかけ			

３．今後取り組む内容（3学期終業式）

部署名	人権教育	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

①　英語の教科書を使って「ﾚｲｼｬﾙ･ﾊﾗｽﾒﾝﾄ」の新しい教材を開発する（高校 3）
②　・分かりやすい人権教育の実践（中学校）
・被差別部落民や在日ｺﾘｱﾝの人権保障, 権利保障の根拠となる歴史的背景をしっかりと教える。（高校）
③　金明秀さんを講師に招いて校内研修をして，教職員の人権意識を高める。（中学校・高校）

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①「ﾚｲｼｬﾙ･ﾊﾗｽﾒﾝﾄ」の問題について考える（高校） ・諸外国では差別的だという理由で公共の場から消えてなくなってしまったのに，日本では差別を批判されることなく，生きた化石のように温存されています。日本にはこれを禁じる国内法がないためです。ﾚｲﾊﾗを防止するためには，在特会らによるﾃﾞﾏやｲﾝﾀｰﾈｯﾄ上の差別的な書き込みに流されないように歴史学習の取り組みが大切である。 ② 分かりやすい人権教育の実践　（中学校） ・人権教育読本「にんげん」、「私たちの道徳」などを活用して、安心して学校生活を送れる集団づくり。（中学校） ・被差別部落民や在日ｺﾘｱﾝの人権保障, 権利保障の根拠となる歴史的背景を教える。（高校） ③ 校内研修の実施。			

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	保健管理	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

１.保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る
２.自立的な健康の保持・増進の確立をめざした保健教育の実践
３.健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化
４.学校保健組織活動の円滑な推進

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
１、保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る ①　配慮を必要とする生徒の把握と学校保健情報の共通理解 ②　救急処置の体制整備と迅速な対応、けがの予防 ③　定期、臨時の健康診断の円滑な実施と事後処置の充実 ④　学校感染症の予防と発生時の迅速な対応 **２、自立的な健康の保持・増進をめざした保健教育の実践** ①心身の健康課題を見出し、発達段階に応じた個別・集団的保健指導の実践 ②行事に合わせた保健指導の充実 ③保健室ホームページ作成企画 **３、健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化** ①生徒、保護者が相談しやすい環境づくりとその問題の背景・要因を的確に把握し、全教職員と情報交換を図る ②SC と生徒相談、関係職員との連携、共通理解を図る **４、学校保健組織活動の円滑な推進** ①学校保健委員会の組織的運営の確立（学校保健計画作成・実施） ②生徒保健委員会の主体的な活動のサポート（検診準備及び介助、啓発活動、心身の健康に関する情報発信）			

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	図書教育	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

①図書室の運営管理の充実
②図書の充実
③読書活動の推進
④利用生徒数の向上

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①図書室の運営管理の充実 (1) 開館時間の安定 (2) 図書委員会の活用 ②図書の充実 (1) 購入図書の選定および購入 (2) 希望図書への配慮 ③読書活動の推進 (1) 読書の啓発 (2) 図書委員会の活用 ④利用生徒数の向上 (1) 図書室利用の推進 (2) 図書委員会の活用			

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	広　報	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

①本校の取り組みをより効果的に見せる方法の検討。 ②ブログのアップ回数を２日に１回のペースを目指す。 ③学校案内のフルモデルチェンジ ④卒業生に対する広報活動の検討。

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①本校の取り組みをより効果的に見せる方法の検討。（特に女子に有効な見せ方） ※目標として、男女比率の女子の比率をあげる。 ②ブログのアップ回数を２日に１回のペースを目指す。 ※広報係のメンバーのブログに対する意識の向上 ※視聴滞在時間の長いホームページ作成の検討 ③新しいコンセプトの学校案内の作成。 ※他校学校案内の研究 ※プレゼンテーションの開催 ④卒業生に対する広報活動の検討。 ※同窓会との連携			

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	業務推進	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

①　成績処理の効率化
②　個人情報の管理の徹底
③　環境の充実
④　業務軽減への方策

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①　成績処理の効率化 ・　成績原票印刷の再検討 ②　個人情報の管理の徹底 ・　定期的な個人情報の安全管理に対する教員への注意喚起 ・　個人データの管理の徹底 ③　環境の充実 ・　教員へのノートパソコンの貸し出し ・　ファイルサーバ内のフォルダの整理およびサーバの分散化 ・　データのバックアップ体制の充実 ④　業務軽減への方策 ・　分掌内での情報の共有化の徹底 ・　効率的な業務の分担の実現 ・　作業マニュアルの改訂			

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	学校評価	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

①学校評価に関する企画･立案・実施
②学校評価の報告書の作成・提出
③授業アンケートに関する企画･立案･実施
④学校関係者評価委員会の企画・立案・実施

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①平成 30 年度各部署からの報告書の資料作成 ・各部署からの重点目標の確認 ・各部署からの中間評価の確認と点検 ・各部署からの年度末評価の点検と資料作成 ②平成 29 年度の学校評価の報告書のホームページ用資料作成 ③授業アンケートの実施とその結果の有効活用の検討 ④学校関係者評価に対する資料作成			

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

部署名	事務室	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

①適切かつ効率的な事務処理と質の維持
②企画・運営に関する事務(特色のある学校づくり)
③校内・教育環境のさらなる整備

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①適切かつ効率的な事務処理と質の維持 ・個々の業務を他の職員とコミュニケーションをとりながら効率的かつ確実に進めていき、組織的な業務を進めていく。 ・個人情報に関わる資料の慎重な取り扱い、また、その他の重要資料に関しては数人で確認しミスを無くすように徹底する。 ・普段の教職員とのコミュニケーションにより子どもたちや保護者の意見を聞きながら子どもたちや保護者が安心できるような事務室としての役割を果たす。 ・生徒、保護者への対応についても相手の立場に立ち親切かつ丁寧さを心がける。 ・稟議一覧を教職員の誰でも閲覧できるように公開する。 ・天王寺事務所との連絡を密にとり相互の連絡ミスを防ぐ。 ・今まで慣例的に行っていた業務・作業の内容と工程を適正であるか見直し、向上を図る。不必要であれば廃止も検討する。 ②企画･運営に関する事務(特色のある学校づくり) ･「特色ある学校づくり」に対応するためにさまざまな学校の情報収集や情報発信をする。 ・職員会議の参加等により具体的な情報を把握する。 また、個々の教職員の活動を結び付け、組織的な学校運営を行う体制を整える。事務職員も他の教職員の教育活動と連携・協働しながら活動し条件整備を行い、事務の効率化や改善を進めて学校運営に携わっていく。 ③校内・教育環境のさらなる整備（昨年度より継続）			

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

平成 30 年度

各部署の中間評価報告書

上宮太子中学校・高等学校

学校評価委員会

平成 30 年度各部署の中間評価 報告書			
部署名	教務部	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

（１）**教務運営システムの整備・効率化**

①行事の着実な実施と改良

生徒会・入試対策部等との連携により、大きなトラブルもなく実施できたと思っている。改善点については、実施後のアンケート等を利用して来年度に向けての検討を進めたい。

②教務内規の精査・改定・整備

教務内規については、いくつかの点について研究・検討を進めている。

（２）**有効な指導体系の継続検討**

①来年度入学生用のカリキュラムの検討を進めている。

（３）**上宮学園中学校との連携検討**

①10 月 25 日（木）に上宮学園中学校との合同校外学習を実施。

②３学期に、合同のスキー実習を予定している。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

【年度末に向けての検討事項】

① 成績原票のコンピュータ化。（業務の効率化）

② 大学入試改革への対応の為の、調査書の検討・作成。

③ さまざまな気象状況や地震発生時またはストライキ等による
登校困難時の対応についての検討。

④ 考査規定の再検討。

⑤ 中学卒業式の実施方法についての検討。

※課題は山積の状態である。積極的に取り組んでいきたい。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成30年度各部署の中間評価 報告書			
部署名	生徒指導部	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

生徒相談

研修会への参加・カウンセリングの日程調整等順調に進んでいる。

スクールカウンセラーによる教職員への研修会は、３学期に予定している。

生徒会

行事は順調に取り組めている。

委員会活動は徐々に積極的に活動しだした。

上宮太子ニュースは、順調に発刊できている。

いくつかのクラブが学校行事に参加・協力できている。

生活指導

１・２・３については、担任・生活指導係教員との協力のもと実行できている。

４については、今後も継続して検討していく。

いじめ事象については生活アンケートより発覚。今後もより強化する。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

生徒相談

問題点は特になし

生徒会

クラブ生を主体とした学校の活性化は今後の課題。

生活指導

生徒の規範意識向上の強化にあたる。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 30 年度各部署の中間評価 報告書			
部署名	進路指導部	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

Ⅰ．ａ．読書指導推進
図書教育との連携が取れておらず、各教員個人任せで、分掌として何も取り組めていない。

ｂ．家庭学習推進
高校１年生に対してスタディサプリの課題を課しているが、そのことが生徒の学習意欲の向上につながっているとは言えない。

ｃ．模試の事前・事後指導（レビュー）、結果分析
教科担当者の事前・事後指導は定着しつつある。結果分析については、Classi を活用するなど、その利便性を向上させている。

ｄ．Classi を活用したメタ認知力の育成
学校行事や定期考査後の振り返りが徹底できておらず、自主的な記録作成にもつながっていない。

Ⅱ．ｅ．生産性の高い進路指導体制構築
業務全体の見直しと協力体制構築について、改善の余地がある。

ｆ．大学入試制度改革の研究と啓蒙
企画委員会での報告、教務部や生徒指導部との連携、学年や教科への資料提供などを行っているが、学校全体での取り組みに結びついていない。

ｇ．アクティブラーニングの研究と啓蒙
各教科に外部セミナーへの参加を呼びかけている。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

Ⅰ．ａ．有効な対策を立てることが難しく、目処が立たない。ある程度、強制力を持って課題図書などを提示していくことも考える必要がある。

ｂ．定期考査前の学習が中心になってしまっているので、日々の学習習慣確立に向けて、対策を考えたい。

ｃ．先生方に加え、生徒へも情報提供を行い、学習意欲の向上につなげたい。

ｄ．ポートフォリオ作成の意義を教員に理解してもらえるよう、情報提供を活発に行う。

Ⅱ．ｅ．業務マニュアルの作成を通じて、業務の削減や分担について、検討を行う。

ｆ．引き続き、情報提供を中心に行っていく。

ｇ．外部セミナーへの参加呼びかけや他校視察を積極的に行っていく。

平成30年度各部署の中間評価

報告書

部署名	入試対策部	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

（1）高校入試における受験者数安定・増加のための活動
① 公立中学校に対して訪問数は昨年より増加させており関係強化に努めている。
② 公立中学校での出張授業や学校訪問が極端に減少している。
③ オープンキャンパスのリーフレットは重点地域の中３生すべてに配布した。近隣に対しては複数回リーフレットを配布した。

（2）上宮学園中学校の活動
上宮との連携を図りながら上宮学園中学校の広報活動を行っている。

（3）情報収集・共有化
・渉外活動や研修会参加において情報収集は積極的に行っている。入試対策部内での共有は概ね図れているが学校全体での共有は達成できていない。

（4）今後に向けての対応策検討
・収集した情報をもとに、検討中である。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

・（1）について
塾や中学校を通し、積極的に案内をかけていく。説明会への動員数を増やすよう広報活動を行っていく。特に今まで関わりのあった受験生に対し、塾を通じてのアプローチを強化していく。公立中学校との関係も深まってきたので、中学校からのアプローチも行う。

・（2）について
今後もより一層の連携を図る。

・（3）について
学校全体での情報共有化が行えるような方策を検討する。

・（4）について
地域ごとに人口推移統計を出した。情報をもとに具体的な動きにつなげていけるよう、部内での意見を集約し具体的に検討していきたい。

平成 30 年度各部署の中間評価 報告書			
部署名	国　語　科	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

10 月 31 日(水)までに上記フォルダーに入れておいてください。

取り組み内容に対しての中間評価（項目別でも、全般的でも可）

１　授業改革については、まだまだ新しいことに充分取り組めているとは言いがたい。

来年度からも、アクティブラーニングを授業内で効率的に実施していく必要があり、各先生方の研究および実施準備に時間を割く必要がある。

２　中心的な問題点は、総合進学コースの授業展開にある。授業への興味付けを含め、今までの授業を見直して、新しい入試制度に対応できる形に作り替えていく抜本的な意識改革が必要。特進コースについては、各学年ともじっくりと勉強に取り組む姿勢作りはできている。

３　受験を見据えたアプローチが全学年で実施できているかといえば、まだまだである。各学年において、新テストに対応した授業作りができるよう、教科内で研鑽を積みたい。

４　研修活動は、今年度も活発に参加することができている。それをフィードバックして教科で指導法を組み直す時期に来ていると痛感している。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

来年度に向け、探究の授業、新テストに向けた授業、新学力観（思考力、判断力、創造力）を身に付ける授業を実施すべく、３学期は精力的に教科での勉強会が必要である。

また、この改革が同時に総合進学コースの生徒たちの「学び」に対する意欲の低さを改善することも期待できると考えている。

平成 30 年度各部署の中間評価 報告書			
部署名	社会科	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

（１）【授業の厳正化と社会科としての強化】については、教科担当者任せにはなっているが、概ねできているものと思われる。

（２）【教科会の活性化】については、なかなか実施出来ていないのが実状である。

（３）【入試問題の研究（本校入試問題及び大学入試問題)】については、高校入試問題は、新傾向の出題や正誤問題を増やすなど少しではあるが、改良している。また、大学入試問題の研究については、昨年に引き続きイグザムを購入していただいた。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

（１）教科担当者任せになっているが、年度末に向け各自が意識し取り組んでもらいたい。

（２）今年度より、高３の演習では、４単位と２単位に分け実施しているが、今後に向けての課題などを検証し来年度に繋げていきたい。

（３）大学入試制度改革に向けて、教科として研鑽していきたい。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 30 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	数学科	責任者名	

取り組み内容に対しての中間評価

１．授業の厳正化

各コースの特性を考慮した教材研究を行い、授業に反映させることを心掛けてはいるが、個々の力に頼るところが大きく、担当教員間での情報交換を行い、より良い教材を共有するところまでは到達していない。研究授業は実施することが出来なかった。

２．数学力の向上

授業内容の定着、模擬試験対策のための家庭学習を提示し、学習状況の把握に努めた。

高 3 は模擬試験に対して、対策・復習を徹底して行うことが出来たが、数学科全体として出来ていない。成績不振者への補習，コース・進路を考慮した講習を長期的または短期集中的に行った。

３．教科会の活性化

連絡の徹底と教科内の共通認識に努めたが、研修まではできていない。

４．研修への参加

できる限り研修会への参加をしてもらった。その中で報告を文章にしてまとめてもらい、教員間で情報交換を行い、共通に認識することはできたが、まだまだ参加できる研修会があるので、今後も参加を促したい。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容（項目別でも、全般的でも可）

・自由に授業見学を行っているが，計画的な授業見学は実施できていない。

・大学入試問題の研究については、個々に行っているが，教科会においての全員での研修はできていない。

・ICT の導入は教員によって差があり、数学科全体として導入は出来ていない。

やるべきこと、やれることはまだたくさんあると思われる。少しずつでも進めていくことが必要。

平成 30 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	理　　科	責任者名	

取り組み内容に対しての中間評価

①　指導力を向上し、授業内容を充実する

a　実験や観察を多く取り入れ（特に中学)、興味・関心を高め、科学的自然観を養う。

また、指導方法を教科内で共有する。

⇒・中学は、教科書内の実験をすべて実践している。

・高校も、物理および化学分野において重要な実験を行っている。

b　可能な限り多くの理科教員が研究授業を実施し、教科会で意見交流を行う。

⇒・今年度は、研究授業を１学期に１回行ったのみである。

c　進研模試や関西国公立、関関同立などの入試問題研究を行い、教科内で情報を共有

する方法を研究する。

⇒・各科目担当でそれぞれ研究し、生徒に還元している。

・全体における情報共有はないが、同科目の先生間で一部行われている。

d　ＩＣＴを用いた授業について研究し、新課程研究を進める。

⇒・授業で使用する資料や映像を研究、採用し授業に活かしている。

②　大学入試に対応できる学力をつけさせる

e　生徒の実情に合わせた補講習・単元テストを適宜実施し、学力向上につなげる。

⇒・各科目担当が、生徒の実情に合わせた形で実施している。

f　「やり直しノート」を作成・提出させ、復習の重要性を意識させる指導を徹底する。

また、課題の与え方について検討する。

⇒・やり直しノートは、各科目で生徒に作成させている。

・課題は、生徒の実情に合わせて検討され、適宜実施されている。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

・研究授業については、今年度は活発に実施できていない。

・模試や入試問題の研究は、個々人では行うが、同科目内での共有にまで至らない。

・模試や校内の考査等で成績の伸びが芳しくない。教科会にて意見交換を積極的に行い、

成績向上の指針を検討していく。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 30 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	英語科	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

①英語学力の向上について

予習ノートチェック、音読指導、英検指導（二次対策のみ）は

予定通りほぼ出来ているように思います。

②指導法の研究について

4 技能の教授法の研修会などには例年以上に参加して

まだまだ研修が必要に思います。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

4 技能を一度に行う英検対策に向けて現在、英語科教員全員で WEB

英会話のトライアルに参加してもらい、来年度から英検二次対策の

代わりになるものを探しています。

外部の研修会に今以上に参加し、研究する必要があります。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 30 年度各部署の中間評価 報告書			
部署名	保健体育科	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

１．時間を守る

体育科だけの問題ではなく、学校全体での指導が大事。体育の時間はほとんどの学年クラスとも守れている。

２．集団行動の様式の習得と実践（静と動）

1 年時に、様式をしっかり覚えて通年を通じて会得している。

３．服装を正す

1 年時に忘れ物が多いが、改善出来てきている。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

ＩＣＴの導入

デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践

保健の授業では導入している。改善点ややり方については教科で研究、実践していきたい。

体育授業の悪天候時に導入、ルールの図解説明や動作解析に利用。

心肺蘇生法の習得

胸骨圧迫・AED 使用方法。ダミー人形や、ＡＥＤの模型に損傷が見られる。買い替えも示唆。

平成 30 年度各部署の中間評価 報告書			
部署名	芸　術　科	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

（１）表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。

・三科目とも実技を中心に行いながら、歴史的なことや学問的なことにも触れ、授業が進められている。

・中学の音楽・美術とも１学期の期末考査を実施した。方法内容について、再考せねばならないと考えている。

（２）評価評定の方法について協議する。

・教科会にて何度か評定の在り方について話したが、今も進行中である。

（３）行事への協力、取り組みについて。

・聖徳書道展において展示のレイアウト及び作業に少しばかり協力できた。

・上宮祭においても文化的な発表面で、協力できた。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

・芸術は、五教科では学べない部分を教えるべきだと考えているので、評価、評定についてもどうあるべきか、継続して考えていきたい。

・中学の音楽・美術の考査を実施しているが、中学すべての学年が１コマ（１クラス）での授業であり、考査が１００点満点でないことや、平常点のことなどを考えると、授業時間内でのテストにした方が良いのではないかとも思われ、今後どうあるべきかを継続して考えていきたい。

平成30年度各部署の中間評価 報告書			
部署名	家庭科	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

①技術・家庭科に対する学習意義の理解

- 他教科との連携ができていないので、計画を立て提案していきたい。

②実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度を育成

- 家庭科での家族員への感謝の心や奉仕の精神は浸透してきたので、継続して伝えていきたい。技術では、学習がより身近に感じてもらうようメディア活用を推進している。

③男女共同参画社会の推進

- ジェンダーの正しい理解を踏まえ、協力し合うことや互いを理解することを意識させたい。

④教材の整備

- 実習教材は検討でき、必要な備品などの整備を進めていっている。

⑤実践的授業の実施計画

- 年間計画の通り進めている。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

＜高校：家庭基礎＞

- 新しい教材で授業を進めているが、改善点などもわかってきたので、その都度修正して授業に臨むように心がける。
- 生徒の反応を大事にし、生活に直結させるよう情報収集をさらに行い、理解しやすく知識を深められるよう努める。

＜中学：技術家庭＞

- 生活から学習を意識し、保護者の理解や協力をしていただきながら、興味関心を深めさせる。
- 実習では、知識だけでなく、説明を理解させ、事故なく安全に進められるよう準備・片付けを徹底する。

平成30年度各部署の中間評価

報告書

部署名	情報科	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

①・　学習効果の高い実習課題の検討は，検討中である。

・　座学で扱う内容の再構成は，実施できている。

・　授業展開の再構成は，実施できている。

②・　他教科におけるPC教室のより良い運営用法の検討は，できていない。

・　放課後等でのPC教室の開放は，一部クラブで実施している。

③・　「情報科」大学入試導入に関する情報収集については，あまり進んでいない。

・　「情報科」大学入試導入に関する研修会への積極的参加については，参加できていない。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

①・　学習効果の高い実習課題の検討については，継続して検討する。

・　座学で扱う内容の再構成については，継続して実施する。

・　授業展開の再構成については，継続して実施する。

②・　他教科におけるPC教室のより良い運営用法の検討については，継続して検討する。

・　放課後等でのPC教室の開放については，継続して検討する。

③・　「情報科」大学入試導入に関する情報収集については，今後も取り組む。

・　「情報科」大学入試導入に関する研修会への積極的参加については，今後も取り組む。

平成 30 年度各部署の中間評価 報告書			
部署名	宗教科	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

①日常の挨拶について、少し元気がない。法然上人像への礼など徹底していきたいです。

②授業開始の「一枚起請文」は元気に奉読できていると思います。行事後、気候的なもので時々元気のない時もあります。

授業においては各学年に応じた授業展開、内容の工夫が必要です。

③高校１年生が元気だと思います。高校３年生は、「生命の尊さ、生きるとは？」というテーマを考える、アクティブラーニングに関心をもってくれています。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

①、②の項目とも２学期になり生徒の気持ちの緩みを感じます。元気な時、疲れている時の差があるように思います。始業での立腰、合掌、礼、など威儀作法について生徒に指導していきます。

平成30年度各部署の中間評価 報告書			
部署名	中　２　学　年	責任者名	

取り組み内容に対しての中間評価

① 大きな声であいさつができ、掃除もしっかりとできるようになってきた。

② 机の周りの整理整頓ができ、授業では集中してメリハリをつけるように指導を続けてきたが数名の生徒がまだできていない。２学期に入っても授業中に指導することもあった。

③ 宿題を期限を守って提出できる生徒が大半であるが、数名の生徒が今後も指導が必要である。

④ 学力の差が増々広がってきている。成績不振生徒の中には、小学５年生くらいの内容が理解していないものもいる。例えば、算数の計算や、国語の文法や漢字などである。

⑤ クラブ活動や生徒会活動に積極的に参加する生徒が多くなった。様々なことに参加することで失敗を恐れず、チャレンジ精神を持つように指導を続けていく。

⑥ スマホでのゲームやSNSなどの利用で就寝時間が遅くなりリズムを崩している生徒が出てきている。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

・なぜ勉強するのか、なぜルールを守らなくてはいけないのか　などをしっかり説明し自らが動いで行動できるように根気よく指導する。

・宿題は必ず家で完成させ、期日を守って提出することを徹底させる。

・成績不振生徒には、教科の担当の先生と協力して、補習や個別指導などで小学校レベルの内容から復習してもらうようにする。

・家庭学習の時間を確保してメリハリのある生活ができるように保護者と連携する。

・授業態度が気になる生徒には、家庭連絡をすぐに行い、情報を共有する。

平成 30 年度各部署の中間評価 報告書			
部署名	中　学　３　年	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

①　遅刻・欠席が多いと学習にも大きく影響する。自ら基本的な生活習慣をしっかり身に付け、リズム感のある生活を送り、学力の向上を目指す。ほとんどの者が達成できていると考えるが、未だ一部の生徒は改善することができずにいる。

②　生徒の中には、基本的な事項が理解できていないことが多い。高校へ向けて基本的な問題などを繰り返し取り組ませる。これに関しては、またまだやるべきことが多いのが現状である。

③　特進選抜コースとして、まず学力推移調査での高得点を目指す。そして、新しい大学入試制度に対応できる力を身に着けられるよう実戦問題や課外学習に多く取り組ませる。一学期における学力推移調査の結果はまずまずといえる結果は出ているが、まだまだ伸びると考える。

④　放課後の時間を有効に活用し、学習環境を整える。ただし、生徒への過剰負担にならないように配慮する。講習がなかなかできずにいるのが現状である。

⑤　中学最終学年であることを自覚し、相手の事をまず第一に考えることができる人柄を形成する。今はよくとも、卒業時にどのような生徒として卒業するかが全てと考えている。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

とにかく、一クラスの中に様々な能力格差がありすぎる。昔でいう総合進学コースの下位の生徒から、特進コースの上位のまでの生徒がいる現状で、どこを焦点として教育すべきなのかが判断しづらいところがある。

平成 30 年度各部署の中間評価 報告書			
部署名	高　１　学　年	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

平成３０年度の重点目標

①早い段階から将来の夢・希望を持たせ、目標を持って学習に励ませる。

②生徒・保護者・教員との密接な連携をとりながら、基本的生活習慣の確立と家庭学習を定着させる。

③協調性（コミュニケーション能力）・自主性・責任感を育てる行事を取り組む。

④サプリやClassi を活用することで、振り返りや考える力を養う。

①については、適性検査を利用したり、いろいろな場面で常に自分の将来について考えさせたので、ほとんどの生徒が自分のことを真剣に考え、夢を明確にしている。
英検合格者の目標数がまだまだ達成されていないので、早朝テストや放課後講習で、しっかりと対策を立てる必要があると思われる。

②二者面談を１学期に２回、２学期に現在１回行ったことで、生徒の現状把握ができ、保護者との連絡も密にできたと思われる。
家庭学習では、宿題をこなすのが精一杯で、自学習の習慣付けがなかなかうまくいっていない。

③行事（体育大会・お掃除隊・大学見学会・上宮祭など）については、どのクラスも積極的に取り組んでいた。（ギネス記録挑戦はまだ未定である。）

④大学入試の改革に伴い、Classi 活用の必要性が高まっている。自己分析や振り返り能力をつけさせることが大事である。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

☆総合進学コース

授業を大切にして、勉強に前向きに取り組もうという気持ちはあるが、なかなか行動が伴わないのが現状。将来の目標も概ね決まり、来年度のコースも決定しているので、腰を落ち着けて勉強に取り組ませる。かつ講習参加を促し、上位層を鍛えることも必要。

☆特進コース

真面目な生徒が多いが、自分に自信が持てず動けない子がいる。宿題を与えるだけでなく、問題集や課題などを自分で選択して、主体的に学習計画を進められるように促し、達成感、自信をつけさせることが必要である。

☆全般

校外学習、球技大会については検討中。

平成 30 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	高２学年	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

（１）【校訓「正思明行」・学順の実践とメリハリのある行事企画】については、概ね実践できていると思われる。

（２）【生徒・保護者・教員の意思疎通】については、各担任が意識し保護者との綿密な意思疎通は概ねできていると思われる。

（３）【特に英語・国語・数学を意識した学力向上のための方策と学習習慣の確立】については、出来ている生徒とそうでない生徒の差が大きくなってきていると感じる。

（４）【担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通】については、担任会は実施出来ているが、学年会の設定が出来ていない。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

（１）修学旅行・さらに冬期休暇後は、受験生として「３年生０学期」をしっかりと意識させていきたい。

（２）今後も各担任が意識し、保護者との連携は密にしていきたい。

（３）特に総合進学コースにおいては、３学期は補講習の充実に努めたい。

（４）担任会だけでなく、学年会というかたちで教員間の意思疎通を図っていきたい。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 30 年度各部署の中間評価 報告書			
部署名	高　３　学　年	責任者名	

取り組み内容に対しての中間評価

１　現状では、日々あきらめずに取り組む集団作りは意識してきたが、思った通りの状態にはまだなりきれていない。学年の上位生徒を除く七割程度の生徒が英語への苦手意識が強く、その状態が盛り上がりを欠く結果となっていることは否めない。やはり、１・２年時からの英語力強化の必要性が必要かと痛感している。

２　家庭との連携による受験校の選定は、それぞれのクラスで充分な対応ができた。
ただ、文科省の指導による入学定員厳正化で、総合進学の上位生徒が指定校推薦に思った以上にエントリーしたのは、やむを得ないとは言え、痛い結果である。

３　各クラスでの受験態勢作りについては、自習室の推奨やｽﾀﾃﾞｨｻﾌﾟﾘ利用の推奨など、キャンペーンを数多くやってきたが、実際生徒への浸透度は今一つであると言わざるを得ない。
まず、１年時から「どうせできないし」という前提を取り除くことが最重要。

４　学年の担任間では情報交換を密にやってこれたが、担当者間ではあまり周知徹底できなかったのは残念である。忙しすぎて、そこまで労力を回すことが出来ない。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

残り半年間となり、公募制推薦入試も始まった。今年は昨年に比べても非常に厳しい受験が予想されている。辛抱強く、最後まで戦い抜けるよう、指導していきたい。
特進クラスについても、まだまだここからが勝負である。全体的に最後の追い込みの時期を迎えるので、まずはセンターで成功を収め、当初の目標を達成できるよう願っている。

平成 29 年度各部署の中間評価 報告書			
部署名	人 権 教 育	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

①「いじめ」の問題 :「いじめ」の問題を高校 1 年生が書いた人権作文を読んで原因を考えさせた。人権作文は理解しやすかった。しかし，G.W. オルポートの『偏見の心理』によると，否定的偏見が弱い段階から強い段階へと移行していく段階での具体例を挙げたがて，「いじめ」が①「誹謗・中傷」から始まり，②「回避」や③「隔絶」の段階と似ていることが生徒には，理解するのは難しかったようだ。

②『日朝の歴史関係①古代から近世の歴史』: 渡来人の貴族の 3 割はであると『新撰姓氏禄』に記述されていると資料をもって証明し，日本はミックス・ルーツであることが分かれば，いつ朝鮮人に対して差別や偏見を抱くようになったかを考える機会になるだろう。

③ これまで人権教育 HR で「部落差別の問題」「在日外国人への差別問題」を学習してきましたが，これらは，それが個々ﾊﾞﾗﾊﾞﾗにあるのではなく、それぞれの差別の特殊面と共通面という二面をみなければなりません。日本には，ｲｼﾞﾒを含めて，2 種類の差別があるように，米国にも「奴隷制度」による「所有」の差別や「ｼﾞﾑ･ｸﾛｳ法」による「排除」の差別といった 2 種類の差別があることに気づかせた。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

①「在日外国人問題，被差別部落問題，いじめ問題など，それらが個々ﾊﾞﾗﾊﾞﾗにあるのではなく，同じ根源を持っている点を押さえる必要がある」と年当初の指導計画を立てたが，まだまだそれにふさわしい教材に至っていない点ので，まだまだ研究しなければならない。(高校)

② 育てる人権教育の実践 （中学校）

・人権教育読本「にんげん」、「私たちの道徳」などを活用して、安心して学校生活を送れる集団づくりを目指した。

「他人ごと」でなく「自分こと」であると考えるように少しずつなってきたようです。いわゆる「人権教育における内的葛藤」についてすこしずつ考えるようになってきたようです。

③ 校内研修の実施 : 金明秀さん（関学大教授）を講師として来てもらって「属性」や「マイナー・アグレッシブ」について講演してもらった。

平成 30 年度各部署の中間評価 報告書			
部署名	**保健管理**	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

１、保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る

定期・臨時の健康診断実施は一部役配に不十分な点があったものの、男女やプライバシーに配慮した学校教育活動の一環として遂行でき、定着化してきた。配慮を必要とする生徒の把握と共通理解では、保護者、各学年団と常に情報共有を行い、組織的な対応ならびに支援を行うことができた。さらに、「学校感染症に係る登校に関する意見書」様式を改訂した。

２、自立的な健康の保持・増進をめざした保健教育の実践

心身の発育・発達、特性に応じた健康課題に向けた個別の保健指導を行った。また、集団的保健教育では生命の教育において、保健所の指導のもとに行った。アンケート結果を分析した結果、クラスによりばらつきがあるものの昨年度よりも理解度のポイントが上がった。中学校でも知り得なかった詳細な取り組み内容で成果があった。上宮祭では本校の健康課題について保健委員会で協議して、睡眠について取り上げ昨年に比べて自主的、主体的な活動で充実していた。また、今年度は ICT を利用した健康教育の実践に着手できた。

３、健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化

男女の発達特性を鑑み、相談しやすい環境作りに努めた。専門性を活かし、一人ひとりの心に寄り添うことに留意し、面談終了後には担任、保護者、学年主任等と組織的な連携、特に教育相談（ＳＣ）とは強く連携を深めている。

４、学校保健組織活動の円滑な推進

生徒保健委員活動では、本校の健康課題である睡眠をテーマにかかげ、アンケート調査を実施して、その結果と質の良い睡眠について上宮祭において掲示・展示を実践した。保健所の指導のもとに生徒主体で行い、生活習慣と食品衛生の啓発活動を推進することができた。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

１、保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る

今後も風疹・麻疹、インフルエンザなどの流行の兆しをいち早く入手し、学校医の指導のもと予防接種勧奨等の感染予防と発生時の迅速な対応、マニュアル化によって予防啓発活動を積極的に行う必要がある。また、救急処置対応だけでなく、けがの予防に努めるために、スポーツ振興センター請求の実態についての数値化や予防啓発教材を活用して、けがの予防に関する情報発信を進めていきたい。

２、自立的な健康の保持・増進をめざした保健教育の実践

睡眠習慣や IT 機器の使用などの基本的生活習慣を自律的に改善、健康増進が将来において図れるように、特に保健室頻回来室者や授業中の居眠り、欠席過多の生徒に対して予防教育に努める。今後もホームページや保健ニュースにおいても ICT の活用を推進していきたい。

３、健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化

心身に問題を抱える生徒の情報は、担任、保護者だけでなく、SC 後の状況についても、必要に応じて報告を行い、最新の情報共有によって連携を深めていく必要がある。また、様々なアンケートの結果や生徒の言動もあわせて心の問題に注意を払い、組織的連携を図る。

４、学校保健組織活動の円滑な推進

生徒が主体的に活動できる保健委員会活動の企画（講演会や発表）、ホームページの作成や保健ニュース作成など、生徒会や各委員会、分掌の協力を得て、引き続き推進していきたい。しかし、その委員会活動において時間を捻出することが難しい。

<table>
<tr><td colspan="4" align="center">平成 30 年度各部署の中間評価
報告書</td></tr>
<tr><td>部署名</td><td>図書室</td><td>責任者名</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">取り組み内容に対しての中間評価

①図書室の運営管理の充実
(1)開館時間の安定　→　予定通りに開館時間を安定させることができている。
(2)図書委員会の活用　→　現在のところ機能させることはできていない。
②図書の充実
(1)購入図書の選定および購入　→　選定委員会等は開けていない。
(2)希望図書への配慮　→　選定委員会が開けていないため実施できていない。
③読書活動の推進
(1)読書の啓発　→　図書だよりにて啓発はしているが、まだまだ不十分といえる。
(2)図書委員会の活用　→　現在のところ機能させることはできていない。
④利用生徒数の向上
(1)図書室利用の推進　→　利用者数は確実に前年度を上回ってきている。
(2)図書委員会の活用　→　現在のところ機能させることはできていない。</td></tr>
<tr><td colspan="4">現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

図書館の運営時間等では予定通りに実施できているため、利用生徒数は段々と増えてきており、図書館機能としては充実してきていると思われるが、運営部分で図書委員会を使っての実施はできていないため、生徒との一体感を感じられる運営とはなっていない。
また、図書選定等に関しても組織的に選定することもできておらず今後早急に実施をすることを考えなければならない。</td></tr>
</table>

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 30 年度各部署の中間評価 報告書			
部署名	広　　報	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

①本校の取り組みをより効果的に見せる方法の検討。（特に女子に有効な見せ方）

今年度の学校案内に関しては、女子の評判はまずまず良好だと思われる。しかしながらホームページ、ポスター、リーフレット等、他校と比較した場合、改善の余地は多々あると思われる。

②ブログのアップ回数を２日に１回のペースを目指す。

ブログのアップ回数は、目標には及んでいない。

③卒業生に対する広報活動の検討。

卒業生に対して広報活動に協力してくれるように依頼をしてみたが、日程の都合等で、実現はできなかった。引き続き依頼を続けようと考えている。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

・年末年始に向けホームページの閲覧回数が増えるので、内容を充実させていきたい。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成30年度各部署の中間評価 報告書			
部署名	業務推進室	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

①・　成績原票印刷は次年度導入に向けて検討中である。

②・　定期的な個人情報の安全管理に対する教員への注意喚起については，個別の対応にとどまっている。

・　個人データの管理の徹底については，新任研でのみ実施した。

③・　教員へのノートパソコンの貸し出しは，適宜実施している。

・　ファイルサーバ内のフォルダの整理およびサーバの分散化については，分散化のみ実施できている。

・　データのバックアップ体制の充実については，現在準備中である。

④・　分掌内での情報の共有化の徹底は不十分である。

・　効率的な業務の分担の実現は，部分的にできている。

・　作業マニュアルの改訂は，あまり進んでいない。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

①・　成績原票印刷は次年度導入に向けて，さらに検討する。

②・　定期的な個人情報の安全管理に対する教員への注意喚起については,，学期末に実施を検討中。

・　個人データの管理の徹底については，学期末に実施を検討中。

③・　教員へのノートパソコンの貸し出しは，今後も適宜実施する。

・　ファイルサーバ内のフォルダの整理については，年度末までに実施する。

・　データのバックアップ体制の充実については，年度末までに完成させる。

④・　分掌内での情報の共有化の徹底は，Classiを活用して実施する。

・　効率的な業務の分担の実現は，今後も段階を増やしていく。

・　作業マニュアルの改訂は，年度末に向けて順次更新していく。

平成 30 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	学校評価	**責任者名**	

取り組み内容に対しての中間評価

① 平成 30 年度各部署からの報告書の資料作成

・各部署からの重点目標の確認　→　予定通りに実施できている。

・各部署からの中間評価の確認と点検　→　予定通りに実施できている。

・各部署からの年度末評価の点検と資料作成　→　予定通りに実施できている。

② 平成 29 年度の学校評価の報告書のホームページ用資料作成

→　資料は揃っているので、今後実施する予定である。

③ 授業アンケートの実施とその結果の有効活用の検討

→　アンケートは実施したので、今後結果が出てきたら活用する予定である。

④ 学校関係者評価に対する資料作成

→　資料は揃っているので、今後作成する予定である。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

現在のところ、資料の作成等は予定通りである。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 30 年度各部署の中間評価

報告書

部署名	事務室	責任者名	

取り組み内容に対しての中間評価

① 適切かつ効率的な事務処理と質の維持

職員とのコミュニケーションを良くとることができ、効率的かつ組織的な業務を進めていくことができた。また、教職員とのコミュニケーションにより配慮が必要な家庭への対応もできた。

しかし、重要資料に関してのミスが発生したことは反省点である。

① 企画・運営に関する事務（特色のある学校づくり）

HP のリニューアルやタブレット・スマートフォン用のアプリを作成し、外部にさまざまな情報を発信できた。

2018 年度入試から WEB 出願受付が行われ、新たな出願のシステム・入学試験要項等の作成が必要となったが、さまざまな学校の情報収集や教職員との会議等により実現することができた。

② 校内の・教育環境のさらなる整備

全教室の黒板をホワイトボードに変更し、さらに ICT 機器を導入した。

地震・台風等の自然災害が多く発生したが、施設・設備等の点検を徹底して行い、破損個所に対して速やかに対応できた。

現在までの問題点および年度末に向けての取り組み内容

① 適切かつ効率的な事務処理と質の維持

特にミスが生じた事象については他の職員とコミュニケーション、連携をとりながら、業務・作業の内容と工程が適正であるか見直し向上させる。

② 企画・運営に関する事務（特色のある学校づくり）

「特色ある学校づくり」の為に、具体的な情報を把握し、さらにリニューアルした HP・アプリを活用しながらさらに情報を外部に発信していく為に教務部、入試対策部を中心として連携していきたい。

③ 校内の・教育環境のさらなる整備

ICT が導入されても教育内容自体は従来と変わらない、もしくは ICT が十分に活用されないことにならないよう、必要なデジタル教材（タブレットで共有する教育用コンテンツ等）の導入も今後検討が必要であると思われる。

上宮太子中学校・高等学校　学校評価委員会

平成 30 年度
学校評価に関する
各部署の総括

上宮太子中学校・高等学校

部署名	教務部	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

（１）教務運営システムの整備・効率化

（２）有効な指導体系の継続検討

（３）上宮学園中学校との連携検討

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
（１）教務運営システムの整備・効率化			
①行事の着実な実施と改良 ※入念な準備，実施要項作成 ※実施資料(改善点等記録含)の整理・保存 ・次年度への引継ぎ	B	B	・実施に関しては先生方の協力により、進めることはできたが、改良点が多く見られた。
②教務各係の業務内容と資料の点検・整備	A	A	・整備、点検を行うことができた。
③教務内規の精査・改定・整備 ※確定規定の明文化と職員周知	B	B	・教務内規の改善を進めることができた。
④各部署との連携強化による業務効率化	B	B	・業務推進部との連携をはかることが出来た。
（２）有効な指導体系の継続検討			
⑤カリキュラム改良の検討	B	A	・カリキュラム改良を進めることができた。
⑥シラバス改良の検討	C	C	・シラバスに関しては手付かずの状態であった。来年度はしっかり取り組みたい。
（３）上宮学園中学校との連携検討			
⑦校外学習・球技大会等連携行事の検討	B	A	・前向きに実施が出来た。

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

今年度、概ね予定通り進めることができた。

次年度の課題として、カリキュラムの更なる改良と、コースの改良等が必要だと思われる。

国際理解教育に関しては、社会の動きに対応しながら、積極的に進めるべきと考えられる。

次年度も、「不易流行」の考え方をしっかり守りながら進めていきたい。

部署名	生　徒　指　導　部	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

生徒相談　悩みをもつ生徒が、楽しく学校生活が送れるようにする。
１教職員への啓発・発信　　２スクールカウンセラーと教職員との連携
生徒会　１生徒会活動の活性化　　２委員会活動の活性化
３広報活動　　４生徒会活動の研究
生活指導　１生徒指導の推進と問題行動の予防強化　２道徳意識，規範意識の向上
３いじめ・不登校，配慮を要する生徒への取り組み　４生徒の愛校心向上

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
生徒相談			カウンセリングについてはスムーズに対応できた。またカウンセリングの部屋も同じ棟にあるため動きがよく、この状態のまま次年度につなげていきたい。
１．研修会への参加、そして報告。 「不登校を考える会」等からの資料プリントの配布。	B	B	
２．カウンセリング希望者との日程・時間等の予約の調整。 カウンセリングを受けた生徒（保護者）の状況を把握。 スクールカウンセラーによる教職員への研修会開催。	B	A	
生徒会			・生徒会役員が中心となって、企画段階より生徒の意見が反映された行事ができた。
１．生徒が主体的に動ける行事の運営・学校づくり　（体育大会・上宮祭運営、生徒議会の開催、規範意識の向上等）	B	B	・委員会としての動きが増え、活性化が見られた。 ・太子ニュースは定期発行できた。太子町時代行列・ふれあい太子 2018 に参加。
２．委員会活動の活性化	A	B	
３．広報活動（上宮太子ニュース・説明会・地域行事参加）	A	A	・クラブは変化なし。来年度の改革に期待。
４．クラブ生を主体とした学校の活性化	C	C	
生活指導			教員の指導への認識は、徐々に浸透しつつある。
１．教員による一律指導を目指し、実践内容を改訂・明確化 大阪私学連盟で得た情報を校内に生かす取り組みの実施	A	B	生徒の規範意識を高めるために、教員がかかわっていく必要がある。
２．始業式・終業式・御忌式の際、全校生徒に指導，説諭 生徒心得遵守を促す取り組み実施・生徒自治会との連携	A	B	機会毎に必要に応じた説諭を行った。２学期には、各学年団の協力を得て登校時の異装確認を実施し効果を得た。
３．「いじめ防止基本方針」・「行動計画」を改定・明確化 不登校，配慮を要する生徒の把握と適宜の対応を検討	A	C	薬物乱用防止教室・防犯教室も実施した。
４．「学校の活気を高揚する取り組み」の実践継続 生徒自治会役員生徒の意見反映	B	B	生活アンケートからの学年での早期発見により、いじめに近い案件に対応できた。
〔そ の 他〕			生徒からの要求には耳を傾け、要求達成を目標に係教員間で検討を続けている。
新入生対象企画「保護者から生徒への手紙」を提案、実施	A	A	

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

生徒相談

スクールカウンセラーへの相談が多い「不登校」「発達障がい」については、継続してスクールカウンセラーとともに検討・研究していきたい。

その他の内容については、現状のままさらに充実させたい。

生徒会

「クラブ生を中心とした学校の活性化」に取り組む必要がある。クラブ代表者会議などを積極的に実施する等、変革が必要と考える。

生活指導

・生徒心得に則った生活実践のための指導の徹底
・学校と生徒が寄り添う形での規範内容の検討
・生徒会・各委員会の協力による校内でのボランティア活動の拡大

部署名	進路指導部	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

生徒の希望進路実現のため、愚公移山の一念で次の各項目に取り組む
Ⅰ．学力向上
Ⅱ．戦略的改革

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
Ⅰ．学力向上			Ⅰ.
ａ．読書指導推進	C	D	ａ．組織的な取り組みが不十分。
ｂ．家庭学習推進	B	C	ｂ．担任を通じた指導が必要。
ｃ．模試の事前・事後指導（レビュー）、結果分析	B	C	ｃ．分析および説明が不十分。
ｄ．Classi を活用したメタ認知力の育成	B	C	ｄ．計画的な実施が必要。
Ⅱ．戦略的改革			Ⅱ.
ｅ．生産性の高い進路指導体制構築	C	C	ｅ．協力体制の構築が不十分。
ｆ．大学入試制度改革の研究と啓蒙	C	C	ｆ．成果をあげつつある教科もある。
ｇ．アクティブラーニングの研究と啓蒙	C	C	ｇ．浸透しつつある教科もある。

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

①　中学や高校１年生に関しては、基礎学力の定着と向上に取り組む。さらに、「思考力」「判断力」「表現力」を育むための探究活動を進め、「主体性」を引き出したい。

②　高校２年・３年に関しては、さらなる「進学実績の向上」に取り組む。教科・学年との連携を深め、生徒の学力向上に努める。

③　生産性の高い進路指導体制を作る。教科・学年に対してリーダーシップを発揮し、全人教育を通して進学実績を向上させる。

部署名	入試対策部	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

（１）高校入試における受験者数安定・増加のための活動
（２）上宮学園中学校の広報活動
（３）情報の収集・共有化
（４）今後に向けての対応策検討

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
（１）高校入試における受験者数安定・増加のための活動 私学無償化の改正や公立校の入試制度改革、少子化の影響もあり、高校受験者も減少してきている。公立中学校において、上宮太子が広く認知され、受験者数を安定・増加させるための活動を強化する。 ①公立中学校や塾などへの訪問回数を増やす。 ②出張授業や学校訪問などの受け入れ態勢を強化する。 ③公立中学校を通し、イベント告知を重点地域の生徒全員に行う。	A C A	A C B	・高校入試における受験生は昨年より少し減少した。専願者数が減少したが昨年の課題であった併願者数は増加した。今後も受験スケールをまずは増加させるように活動していく。 ・入試結果を見ていると特進コースの受験生レベルが上昇しているのはよかった。コースの進学実績の上昇や取り組みが評価された結果と思われる。 ・高校入試のイベントは昨年並みの参加者数であった。公立中学校への広報活動を強化した成果であると思われる。 ・上宮学園中の広報活動においては、上宮との連携が不可欠である。できる限り連携をとってきたが、まだまだできることは多いのではないか。引き続き連携を強化し、上宮、上宮太子共同で募集活動を展開していく。 ・学校全体への情報共有は満足いくものではなかった。発信、共有する仕組みが必要である。
（２）上宮学園中学校の広報活動 平成３０年度入試より、上宮中学校と上宮太子中学校を統合し、上宮学園中学校として募集を行う。これまで培ってきた両校の教育内容を集中し、さらに発展させるためである。広報においても上宮と協力体制をとりながら、募集活動を展開していく。	B	B	
（３）情報の収集・共有化 受験情勢や社会の動向、各校の動きなど入試の現場は刻一刻と変化している。その変化に学校全体での対応が円滑にできるために、情報収集と情報の共有化を図りうる環境を整える。	C	C	
（４）今後に向けての対応策検討 少子化、就学支援金支給の動向、公立校の入試制度改革など、私立校を取り囲む状況は今後一層厳しいものになる。入試広報の側面から、将来を見据えた対応策を検討する。	B	B	

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

・少子化が進んでいる。特に本校がターゲットとする地域（大阪南部、奈良県南部）の人口減少が著しい。向こう３年間で大阪府下の受験生人口は、今年に比べて１割以上減少するデータがある。人口が減少しても安定的に受験生を確保できるよう魅力ある学校づくりを行うとともに、効果的な広報活動を強化していかなければならない。現代社会に即した広報ツールのＩＣＴ化、学校を知ってもらうための魅力的なイベントや受験生や保護者に直接訴えかける告知方法など、具体的かつ効果的な方策を練っていく必要がある。よって今年度の取り組みを継承しつつ、発展させていかなければならない。

・部署間の連携を強化し学校全体で様々な知恵を出し合わなければならない。教務、進路、生活指導など、あらゆる方面から魅力ある上宮太子をつくっていけるよう、入試対策部が得られる様々な情報を学内に提供する。会議のみならず、学内にあるＩＣＴツールを使って共有を図りたい。

・上宮学園中学校、上宮高等学校との様々な部分で連携を強化したい。生徒募集における関わり合いだけでなく、部署間、教科間の垣根を超えた連携を今後も進めていき、上宮学園としての発展を目指していかねばならない。

部署名	国　語　科	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

１．　授業改革による生徒の読解力・表現力の向上
２．　各学年の学習指導計画をより充実させるための研究（特に高１学年の教育方法の改革）
３．　受験対応力向上へ向けたアプローチ（大学入試問題の研究を含む）
４．　教員の研修活動への参加、フィードバック、記述講座（教員のスキルアップ）

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
１、　授業改革による生徒の読解力・表現力の向上 ①　生徒の学習定着をはかるための方策研究 ②　読解トレーニングと読解力向上への取り組み ③　職員同士での国語力向上についての意見交換	C	C	前年度から大きな進展を得られなかった。実施のための時間が確保できなかった。
２、　各学年での学習指導内容の研究 ①　模擬試験・大学入試問題等を使用して生徒の到達度を確認 ②　特進コース →センター、国公立の大学入試に即応できる実力養成 ③　総合進学コース →推薦入試への対応　小論文対策 →公募制推薦・一般入試に向けた対策　学習指導内容の改善 ④　高１学年の新入試制度に向けた授業改革	B	B	全体的には新しいことをすることができなかったが、推薦入試では国公立大学の３名の合格を含め、大きな成果をあげることができた。これからの入試改革にも重要な入試方法であるので、さらに研究を進めたい。
３、　受験対応力向上へ向けたアプローチ ①　各学年における講習の充実 ②　教材や指導法における受験対応力強化の工夫 ③　授業中小テストの導入による継続的な基礎力向上への取り組み ③　国公立大学・難関私立大学の出題研究	B	B	受験対応力をつけるための方策は、特進クラスについては一定の評価ができると思う。ただし、総合進学コースにおいてはほとんど対策を講じることができなかった。
４、　教員の研修活動への参加、教科へのフィードバック ①予備校・大学主催の研修会やその他の学習会への積極的な参加 →入試の現状把握、教員のスキルアップ ②　教科への研修活動のフィードバック →教科会での参加活動報告、または勉強会開催 ③「論理ｴﾝｼﾞﾝ講座」「記述講座」「新入試制度研究」 をはじめ、教科内の教員による勉強会実施	C	C	例年通りであった。 もっと積極的な取り組みができる環境が必要だと感じた。

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

今年度は、主任が３年生学年主任を兼任していたことが大きく響き、ほとんど教科として新しい取り組みへの改革が進まなかった。若手の先生を含め、全体のスキルアップと新しい教育への情報共有、授業改革が急務である。その中で、全く一年間動きが取れなかったことは残念であった。

来年度は、春から新たな取り組みが可能な状況が生まれる。Find！アクティブラーナーを積極的に活用し、各先生方が授業改革への高い意識を持って取り組めるようにしたい。

また、生徒が必要なレベルと現状の分析を緻密に行い、もっと先生方同士の会話や情報交換も増やしながら、どんどん新しい授業スタイルを積極的に取り入れていきたい。

生徒が国語を「好き」になり、自発的に勉強できる環境を作るためにも、先生方の意識改革が非常に大切である。

来年度は、どんどん「仕掛け」て行きたいと思う。

部署名	社会科	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

(1)授業の厳正化と社会科としての強化
(2)教科会の活性化
(3)入試問題の研究（本校入試問題及び大学入試問題）

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1)①「立腰」から始まる授業に集中できる雰囲気づくりをする。	B	B	(1)概ね達成できていると考えている。ただ、課題としては、社会科に関する研修会の参加は授業関係上参加が難しい状況である。一般入試において社会科を必要としない受験も多くあるため高３時での授業進行が難しい状況である。
②社会科の授業が好きになる工夫をする。	B	B	
③中３生においては、高校入試で３ヵ年の成績を上回る。	B	B	
④高校において､特進コースは平均偏差値 60 以上､総合進学コースは平均偏差値 50 以上をめざす。	B	B	
⑤授業アンケートを意識した授業を実施し、総合評価で 80％を上回る。	A	A	
⑥社会科に関する研修会などへの積極的な参加。	A	B	
⑦高校３年生における社会科を入試で捨てさせない意識付け。	B	B	
(2)①教科会の可能な限りの実施と科目間の連携。	A	A	(2)可能な限り教科会は実施したが、事務内容の伝達が中心であった。
②授業見学会実施	B	B	
③思考力・判断力・表現力を意識した、新課程研究を始める。	B	B	
(3)①大学入試制度改革に向けた上宮太子高校の入試問題にふさわしい内容にするための研究。	A	A	(3)少しずつではあるが､研鑽を重ねている。
②大学入試センター試験、難関私立大学等の入試問題を研究し、高得点につながる科目担当者による研究。	A	A	

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

入試制度改革に向けての新たな取り組みの研究や研修をしなければならない。そのために、研修会などに積極的に参加していきたい。
また、総合進学コースにおいては偏差値 50 以上、特進コースにおいは偏差値 60 以上を目指し、強い社会科を目指し、今後も研鑽を務めていきたい。

部署名	数学科	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

１．授業の厳正化
２．数学力の向上
３．教科会の活性化
４．研修への参加

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
１．授業の厳正化			数学科では、各自が日々深い教材研究を行い、教材の共有を行うことは出来ている。しかしながら、研究授業を数学科で統一して行うことは出来ていないのが現状である。教科として、積極的に研究授業を行っていくことが必要と思われる。 家庭学習は学年によっては積極的に課し、生徒の成績の向上にもつながっている。今後数学科として、まとまった一つの方針を作ることが必要と感じている。また、高 3 生には積極的に課題を課し、特進コースの国公立大学の合格率向上に大きく貢献することができた。しかしながら、総合進学コース理系は中々結果を出すことが出来なかった。 教科会は多く行い、連絡の徹底は出来ている。 研修への参加は数学科の各教員が積極的に参加希望を出し多くの研修会に参加している。今後は、その情報を共有し、教科として統一した方針を示していくことが必要と感じている。
・個々のより深い教材研究と教材の共有	A	A	
・研究授業の実施	C	C	
・各コースの特性を見据えた指導計画と実践	B	B	
２．数学力の向上			
・家庭学習定着のための内容・量の適正化と推進	B	B	
・各学年の偏差値２ポイントアップを目指した模擬試験対策およびやり直しの徹底	B	B	
・能力に応じた補習、講習の実施	A	B	
・大学入試問題の研究・研修と生徒への還元	B	B	
・特進コースの国公立大合格率向上（最後まで目標を持って諦めさせない）	A	A	
・総合進学コースの一般入試合格率向上（指定校・AO 入試に頼らず、一般入試まで頑張らせる）	B	C	
３．教科会の活性化			
・連絡の徹底と教科内の共通認識	A	B	
・教科における情報交換と研修	B	B	
４．研修への参加			
・アクティブラーニングや ICT についての研修を受け、学んだことを教科会で検討し、導入していく。	B	B	

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

・教科として研究授業の積極的な実施
　月に一度研究授業を行えるようにしたい。

・ICT、アクティブラーニングについての校内の研修、情報共有、模擬授業・研究授業の積極的な実施。
　数学のグラフとして、ICT でしかできない方法を数学で共有する。

・各学年における、課題作成方法、小テストの統一、共有。

・大手予備校の研修会や、大学の入試説明会などの積極的な参加

部署名	理　　科	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

昨年度までの目標から継続し、以下の２つを重点目標とする。
①　指導力を向上し、授業内容を充実する。
②　大学入試に対応できる学力をつけさせる。

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①　指導力を向上し、授業内容を充実する			
a　実験や観察を多く取り入れ（特に中学)、興味・関心を高め、科学的自然観を養う。また、指導方法を教科内で共有する。	A	B	・各科目において、積極的に実験を行い生徒の興味、関心を高めた。
b　可能な限り多くの理科教員が研究授業を実施し、これをもとに教科会で意見交流を行う。	A	A	・研究授業時には、実験を中心とした授業を見学し、教員間で意見交換を行った。
c　進研模試や関西国公立、関関同立などの入試問題研究を行い、教科内で情報を共有する方法を研究する。	B	C	・科目の担当者ごとの研究は進められているが、情報共有にまでは至っていない。
d　ＩＣＴを用いた授業について研究し、新課程研究を進める。	B	B	・各科目において、よりよい授業のためのＩＣＴ機器およびソフトを活用した資料作成等を検討実践した。
②　大学入試に対応できる学力をつけさせる			
e　生徒の実情に合わせた補講習・単元テストを適宜実施し、学力向上につなげる。	A	A	・単元テストは実施できた。状況に合わせた補講習も実施できた。生徒個人の要求にも真摯に対応した。
f　「やり直しノート」を作成・提出させ、復習の重要性を意識させる指導を徹底する。また、課題の与え方について検討する。	A	B	・考査後にやり直しノートを書かせ、自分の行動の振り返りも書かせた。担当からのコメントも、生徒の学習によい影響を与えた。

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

・実験、観察の実践
・より効果的な学習課題の検討
・ＩＣＴ機器の授業への有効な取り入れの検討
・アクティブラーニングなどの手法を取り入れた授業展開の構築
・新しい入試に向けての研鑽

部署名	英語科	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

1 年間で総合進学は進研模試で 2 ポイント、特進は 4 ポイントＵＰ

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①英語学力の向上			
・予習を確認するためのノートチェックを週に１回以上（特進は毎時間実施）	B	B	ほとんどの先生方が予習のチェックをしてくれているようです。
・１セクション後に小テスト実施による復習の定着（特進は毎時間実施）	B	B	早朝テストもあり、大変ですがほぼ行ってくれています。
・授業中の音読指導	B	B	受験前の 3 年生以外はなるべく取り入れてもらっています。
・辞書と参考書の積極活用	B	C	辞書は活用していますが、参考書まで活用する時間が取れないようです。
・英検受験の奨励（特進は全員２級取得を目標に）	A	A	積極的に受験しています。
②成果に繋がる指導法の研究			
・教員間の授業を積極的に見学	C	C	日々のノートチェック、小テストに追われ実施があまりできていません。
・校外の研修会に参加	C	C	予定も合わず、少しだけしか参加していません。

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

教科主任が特進 3 年生担任であるため、まずクラス指導に追われ、全体をうまく見渡すことができませんでした。来年度は少し、全体をコントロールしたいと思います。

センター入試に代わる共通テスト対策に向けて、授業改革を少しずつ推し進めたいと思います。

また、リスニングが 50 点から 100 点になるので新 1 年生、2 年生に準備させる方法を考えるつもりです。

部署名	保健体育科	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

・集団行動を通じて、社会生活に適応できる姿勢・礼儀などを習得する。
・各種スポーツを通じて、技能向上と体力作り・協調性を習得する。
・デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践できるようにしていく。

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
時間を守る 授業開始時間に遅れない	B	B	年々、時間に対する感覚が緩んでいるように思える。上宮太子生の将来のためにも今後も徹底していきたい。
集団行動の様式の習得と実践（静と動） 挨拶・姿勢・集解散・方向変換・ラジオ体操	B	B	上宮太子体育の伝統である。引き続き継続していく。
服装を正す 忘れ物を無くす・腰パン・半袖シャツを出さない・体操帽着用	B	A	3 年時にはほとんど忘れ物がない。1 年生のときから指導していく。
各種目の技術習得 個人技能と集団技能	B	C	運動能力の低下を年々感じている。
運動することの必要性、大切さ 生活習慣と生涯健康の関わりを理解する	B	A	教員全員が徹底的に指導、理解させている。今後も継続する。
各種目のルールの理解 ゲームの運営・ルール習得	B	B	雨天時などを利用し、都度対応している。
ＩＣＴの導入 デジタル教科書を活用した、授業も研究し、実践	C	B	導入段階で保険の授業に活用。全教員が活用できるようにしていきたい。
心肺蘇生法の習得 胸骨圧迫・AED 使用方法	B	B	保健の授業、実習を利用し理解させている。

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

前年度の結果をふまえて、引き続き実践していきたい。

部署名	芸術科	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成30年度の重点目標（4月末）

１．表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。
２．評価、評定の方法について協議する。
３．行事への協力、取り組み。

２．平成30年度の取り組み内容（4月末　年度末評価は3学期終業式）

内　　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
1．表現力を伸ばし、感性を磨き、豊かな心を養う。 ①表現力を伸ばすための基礎技術の指導、および基本的な知識をつける。 ・音楽　演奏（器楽、声楽）の基本技術の指導。 音楽史の学習。 ・美術　絵画表現（描写、着彩）と立体表現の指導。 美術史の学習。 ・書道　楷書、行書における用筆法の指導。 書道史の学習。	A	B	・今年度、中学2年生3年生においては音楽・美術の授業時数において、35 時間（1時間50分として）がうまく実施できた。次年度も計画的に進めていきたい。 ・高校の音・美・書においては少人数の実施のため、基本学習がしっかり指導できたと思う。 特に、音楽においては、キーボードの導入、さらに美術においてもタブレットの導入により、充実した学習となった。
②中学の音楽・美術においては、期末考査の実施について再検討する	A	B	・このまま実施の方向で進める。
2．評価、評定の方法について協議する。 ①平常点の割合の研究、分析等を行う。	A	B	・継続して協議の方向。
3．行事への協力、取り組み。 ①聖徳書道展への協力。	A	A	・予定通り協力・連携できた。
②芸能鑑賞等、教務部との連携。	A	B	

３．今後取り組む内容(3学期　終業式)

・芸術で何を学ばせるかを再度考えたい。そして評価について、どうあるべきかを継続して考えていきたい。

・芸術を2年か3年で入れることは可能かどうか、検討したい。

部署名	技術家庭科	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

① 技術・家庭科に対する学習意欲の向上
② 実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度を育成
③ 男女共同参画社会を意識した教育推進
④ 教材の整備
⑤ 実践的授業の実施計画

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①技術・家庭科に対する学習意欲の向上 ・授業プリントの内容を深め、関連した資料や情報を添付する。（本物志向の展開：本物を見て触らせる） ・未提出者等は催促し、必ず提出させる。 ・他教科との連携を図った授業を展開する。	B	B	＜　技術　＞ ①　実習の計画をしていたが、計画の予定が大幅に遅れ、実習ができなかった。 ②　パソコン教室を活用し、ICT を意識した授業が展開でき、タイピング練習も進んだ。 ③　専門性を高め、教材研究を家庭科と共に深める必要がある。関連事項などは積極的に取り組み、連動性を持ちたい。 ＜　中学家庭　＞ ①　例年より実習のレベルアップを図ったが、計画時間内でほぼ終えることができた。 ②　書がカメラを利用したプロジェクターによる授業を取り入れた。学習の浸透がある者とそうでない者はいるが、目新しさに生徒たちは興味を持って取り組んでいた。 ＜　高校家庭　＞ ①　総合進学、特進関係なく学習意欲が高く、平常点も含め考査の点数が高くなった。生活への興味関心、自立を家庭科からもアプローチしていきたい。 ②　授業が深めていけるよう教科書の内容などを精査していきたい。また、ICT 教育を進めていけるよう率先して研究していきたい。 授業が単調にならないよう、教材を見直していきたい。
②実践的・体験的な活動、生活を改善する意欲と実践的な態度を育成 ・ものづくりの体験的活動を通して、家族の人間関係や家庭の機能を理解させる。 ・生活に必要な基礎的・基本的な知識・技術を身につけさせ、生活を工夫し創造する能力を育成する。	B	B	
③男女共同参画社会を意識した教育推進 ・男女共に協力し、助け合えるよう自立を促す。	B	A	
④教材の整備 ・環境に配慮して主体的に生活を営む能力を育てるため、自ら課題を見いだし展開できる問題解決的な教材を検討する。 ・情報化や科学技術の進展に対応し、生活と技術との関わり、情報手段の活用内容の充実を図る。	B	B	
⑤実践的授業の実施計画 ・ものづくりは行程が重要であるため、構想の表示から設計・製図、材料・工具の研究、製作、仕上げを、計画的に実施する。 ・全ての実習に於いて、「安全面」「備品管理」を徹底する。	C	B	

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

＜技家共通＞

- 情報教育の推進を図る。
  プロジェクターを活用した授業を目指す。
- 授業研究を深め、教材を精査する。
  より深めた学習を追求する。
- 実習計画を見直し、実習課題を速やかに実施できるようにすすめる。
  綿密な計画を立て、補習が極力ない指導をする。
- 他教科との連携を図り、資料などの収集をする。
  勉強会などの計画を立て実行したい。

中には生徒全体的に興味が薄れる分野があるので、教材の検討を図りたい。また、２０２０年度はカリキュラムが変更されるため、授業単位に合わせた教材を整備していく必要がある。被服実習を織り込んだ内容にしていきたい。他教科の内容も含めた検討の必要性を感じている。探究や図書教育、現代社会など社会の流れと併せ持った準備をしていきたい。

部署名	情報科	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

① より良い授業内容にするための検討
② PC 教室の活用の促進
③ 大学入試制度改革に関する情報収集

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① より良い授業内容にするための検討			
・ 学習効果の高い実習課題の検討	B	C	・検討はしたが，あまり改善しなかった。
・ 座学で扱う内容の再構成	B	B	・一定の成果はあった。
・ 授業展開の再構成	B	B	・再構成できた，
② PC 教室の活用の促進			
・ 他教科における PC 教室のより良い運営用法の検討	D	D	・検討できなかった。継続して検討する。
・ 放課後等での PC 教室の開放	C	C	・実施できなかった。今後も検討する。
③ 大学入試制度改革に関する情報収集			
・ 「情報科」大学入試導入に関する情報収集	A	B	・一定の成果はあった。
・ 「情報科」大学入試導入に関する研修会への積極的参加	A	B	・一定の成果はあった。

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

① より良い授業内容にするための検討
・ 学習効果の高い実習課題の検討
・ 座学で扱う内容の再構成
・ 新学習指導要領における教材研究

② PC 教室の活用の促進
・ 他教科における PC 教室のより良い運営用法の検討
・ 放課後等での PC 教室の開放

③ 大学入試制度改革に関する情報収集
・ 「情報科」大学入試導入に関する情報収集
・ 「情報科」大学入試導入に関する研修会への積極的参加

部署名	宗教科	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成30年度の重点目標（4月末）

① 校訓、学順の理解
② 授業内容のさらなる充実
③ 宗教行事の理解と実践

２．平成30年度の取り組み内容（4月末　年度末評価は3学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
① 校訓、学順の理解			
（１）　授業を通じて「挨拶」の実践を徹底する。	B	B	学校生活、クラブ活動において積極的に挨拶をしてくれています。
（２）　礼儀作法について学習、実践をする。	B	C	一枚起請文、十念も大きな声で称えてくれています。学年が上がるに従い、少し声が小さくなりがちです。
② 授業内容のさらなる充実			
（１）　授業開始時の一枚起請文奉読を徹底する。	B	B	
（２）　生徒の理解に適した授業を展開する。	B	B	教科書以外の情報（ICT活用）発信に興味、関心を持ってくれています。いかに授業の理解につなげるかが課題です。
③ 宗教行事の理解と実践			
（１）授業において宗教行事の由来、意義を学習する。	B	C	
（２）生徒参加による宗教行事の実践をする。	C	C	

３．今後取り組む内容（3学期終業式）

宗教の教科書、仏教読本が改訂されカラー資料による一体の教材となりました。

しかし、文章の量、内容が難しいことは旧版の仏教読本とあまり変わりません。

ICTも活用し、より分かりやすく、工夫する授業を展開していきます。

部署名	中学２年	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

①正思明行に基づいたけじめある学校生活を身につける。
②基本的な生活習慣を身につける。
③チャレンジ精神を育む。
④基礎学力の定着。

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①　１に掃除、２に勤行、３に学問の考えをもとに挨拶、掃除を大切にし、授業では集中して話を聞くことを指導する。	B	B	・掃除は意欲的に取り組んでいた。式典等の準備ではよく行動して短時間で準備を完了することができた。２学期後半から授業に集中できない生徒がいた。
②　授業教材等の忘れ物がないように前日から用意し、朝は朝食を食べて、余裕をもって登校できるように指導する。特に、スマホやタブレットの普及により夜更かしする生徒が増えているので規則正しい生活を送るように保護者の方と協力する。	B	B	・特定の生徒が忘れ物が多かった。ほとんどの生徒は朝食を食べて登校して、規則正しい生活を送っていた。今後は、スマホの使い方を繰り返し指導する必要がある。ツイッターでの書き込みに注意する必要がある。
③　中学時代は様々なことにチャレンジすることで大きく成長できる。勉強だけでなく、部活、生徒会活動、ボランティア活動など幅広く興味を持たせ、それらにチャレンジさせる。また、失敗しても生徒たちがお互い励まし合い、次のことに更なるチャレンジができるように環境作りを心がける。	B	A	・学級活動、クラブ活動、生徒会活動に意欲的に取り組む生徒が増えてきた。今以上に何事にも取り組む姿勢を持って欲しい。
④　宿題は必ず提出期限を守って提出させることを目指し、また予習→授業→復習のサイクルの大切さを伝え、生徒が実践できるように指導する。	B	B	・家庭学習の習慣が身についていない生徒がまだまだいるので、繰り返し指導する必要がある。

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

・提出物は提出期限を守って必ず提出することを徹底させたい。
・家庭学習の習慣をしっかりと身につけさせたい。
・朝の挨拶、言葉遣いはしっかりとできている。清掃活動においても意欲的に取り組んでいる生徒が多い。ただし、男子生徒の中で出したゴミをそのままにしておくものがいて、その生徒への指導が必要である。
・男子はゲームに使う時間が多く、女子はツイッター等の SNS に使う時間が多いようである。特にツイッターにおいて、他の生徒のことを書き込むことが目立つ。大きな問題にならないように、今後は保護者と連携してスマホの使い方を指導していきたい。
・クラブ活動、生徒会活動など勉強以外の活動にも大きな意義があることを意識させ、積極的な取り組みへとつなげたい。
・学習内容が難しくなってきて、生徒間の学力の差が大きくなってきている。来年度からの英語・数学・国語の習熟度別授業では、それぞれのクラスの狙いをはっきりとさせ、基礎学力の徹底から応用力の養成までしっかりと指導していきたい。
・英検では、全員３級以上合格を目指す。

部署名	中学３年	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

①　基本的な生活習慣の確立（遅刻欠席などをしない）
②　高校へ向けての学力の確立
③　新しい大学入試制度に対応できる学力の向上を目指す
④　補習・講習を効率的に活用する
⑤　よりよい人間関係を築く

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①　遅刻・欠席が多いと学習にも大きく影響する。自ら基本的な生活習慣をしっかり身に付け、リズム感のある生活を送り、学力の向上を目指す。	A	A	ほとんどの者が達成できていると考えるが、未だ一部の生徒は改善することができずにいる。
②　生徒の中には、基本的な事項が理解できていないことが多い。高校へ向けて基本的な問題などを繰り返し取り組ませる。	A	A	生徒の中には、基本的な事項が理解できていないことが多い。高校へ向けて基本的な問題などを繰り返し取り組ませた成果はあったと考える。
③　特進コースでは、まず学力推移調査での高得点を目指す。そして、新しい大学入試制度に対応できる力を身に着けられるよう実戦問題や課外学習に多く取り組ませる。	B	B	特進選抜コースとして、まず学力推移調査での高得点を目指した。新しい大学入試制度に対応できる力を身に着けられるよう実戦問題や課外学習に多く取り組ませる。一学期における学力推移調査の結果はまずまずといえる結果は出ているが、まだまだ伸びると考える。
④　放課後の時間を有効に活用し、学習環境を整える。ただし、生徒への過剰負担にならないように配慮する。	B	B	講習が思っていた以上にはできなかった。
⑤　中学最終学年であることを自覚し、相手の事をまず第一に考えることができる人柄を形成する。	A	A	相手の事をまず第一に考えることができる人柄を形成する。今はよくとも、卒業時にどのような生徒として卒業するかが全てと考えていたが、それなりに上宮太子中学生としては良い人格をもって、良い終わり方をしてくれたと考える。

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

とにかく、一クラスの中に様々な能力格差がありすぎる。昔でいう総合進学コースの下位の生徒から、特進コースの上位のまでの生徒がいる現状で、どこを焦点として教育すべきなのかが判断しづらいところがあった。来年度は高１になるが、他校に進学したもの４名（進路変更は部活動の関係で２名、進路面での変更２名）に加えて、総合進学コースにコース変更したもの４名、特進コースに残った者は１６名となった。結果的に見れば本来進学すべきコースに三分の二の生徒しか残せなかったところに学年としての責任を感じる。

部署名	高　１　学　年	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

①早い段階から将来の夢・希望を持たせ、目標を持って学習に励ませる。
②生徒・保護者・教員との密接な連携をとりながら、基本的生活習慣の確立と家庭学習を定着させる。
③協調性（コミュニケーション能力）・自主性・責任感を育てる行事を取り組む。
④サプリやClassi を活用することで、振り返りや考える力を養う。

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①進路ＬＨＲ・大学見学会・夢ナビ・適性検査などの実施により将来の夢・希望・進路・職業について考える機会を与える。	A	A	①将来の夢・希望を持っている生徒は多く模試に関しても前向きに挑戦する生徒が増えた。ただ、事前対策はしていたが、徹底したやり直しをするところまではいかなかった。英検に対しては、入試に必ず必要であるということを理解している生徒が多く自分のことと考え、事前にしっかり対策を立てて前向きに受験していた。 ②学期に一度は必ず二者面談をすることができた。基本的生活習慣もきっちり身についている子が多いが、家庭学習まではなかなか徹底できなかった。 ③これからの時代には、自主性やコミュニケーション能力、問題解決能力、協調性が必要となる。そのため、何事にも目標を明確にして前向きに取り組ませた。探究学習にもすすんで参加しており、チームで案を出し合って企画し、責任感と協調性を持って問題解決に取り組んでいた。ただ、ギネス記録挑戦については未だ案の段階で止まっている。 ④これからの入試制度で必要となる振り返りが、なかなか徹底できずに１年が終わってしまったように感じる。 行事ごとや、気がついたときに校内ですぐ記録できるようなシステムがあればよいと考えられる。
・スタディーサポート、模試などを真剣に受けさせ、やり直しを徹底することで実力をつける。	A	A	
・英検（目標準２級）合格のために、早朝テスト・放課後の講習・教科の授業内小テストなどを利用する。	A	A	
②随時、生徒との二者面談をし、日々生徒の様子を把握して、常に保護者と連絡を密にする。	A	A	
・基本的生活習慣を身につけさせる。（挨拶、服装、頭髪、言葉遣いなど）	A	A	
・授業開始に立腰と黙想をきっちりすることで心を落ち着かせ、授業に対して真剣に取り組む姿勢を作る。	A	A	
・自学習の習慣を身につけさせ、家庭でも毎日机に向かって、復習・予習を自主的にできるようにする。	C	C	
・担任団のみならず、学年担当者、教科担当者との連絡を密にして、情報を共有し、全員が同じ方向性で指導にあたり、生徒の夢・希望を応援する。	B	B	
③上宮祭、体育大会、学年行事に於いて、個人・各クラスの積極的な参加を促し、責任感と協調性を養う。	A	A	
④学校行事や、クラブ活動、校外活動、個人で行った行動・活動に対して、常に振り返りを意識させ、次にどうするかを考えさせることで、自主性を身につけさせる。	A	A	

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

☆総合：この１年で、将来の夢や目標大学を具体的に決めている生徒が多く、自分をしっかり見つめることができたように思える。クラブ入部率も高いので、積極性や行動力も持っている生徒が多い。この特徴を活かして勉強面における粘り強さや、達成感をつけてあげれば、家庭学習にも時間を使うようになり、どんどん自信を持って自主的に行動するようになると思う。

☆特進：この１年で、将来の夢や目標大学を具体的に決めている生徒が多く、自分をしっかり見つめることができたように思える。大学入試制度改革により学問とクラブ活動の両立が一層求められているため、例年よりクラブの入部率も高く積極性や行動力を持っている生徒が多い。これらの特徴から、５教科の学習とクラブ活動にかける時間面の工夫が必要であり、時間短縮のためにも主体的に学ばざるを得なくなると思う。

☆全体：朝礼・終礼における服装の徹底、立腰、予鈴のチャイムで授業の用意などは習慣付けられた。教師側があきらめずに、徹底して継続すれば生徒は答えてくれる。生徒の全体の動きとしては、自分たちで考え、声をかけあって動ける学年であると思われる。自主性や積極性は身についているので、生徒に責任を持たせて、自分で考え行動させる体験を多く持たせるといった誘導の仕方次第でまだまだまだ成長してくれる。日頃から生徒に関わって状況把握することは当たり前であるが、最低学期に１回はきちんと二者面談をして生徒を良い方向に導くことは継続していく。

部署名	高２学年	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

(1)校訓「正思明行」・学順の実践とメリハリのある行事企画
(2)生徒・保護者・教員の意思疎通
(3)特に英語・国語・数学を意識した学力向上のための方策と学習習慣の確立
【目標：国公立大学（25 名以上)、関関同立（実数 10 名以上)、産近甲龍（述べ数 100 名以上)】
(4)担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1)①法然上人の教え・校訓「正思明行」・学順を意識した生徒指導	A	A	(1)概ね達成できたと感じている。校外学習では USJ を企画し、修学旅行や上宮祭も生徒にとっては、満足度が高かったように感じている。
②メリハリのある行事企画と充実	A	A	
③思い出に残る修学旅行の企画と充実	A	A	
④学年企画による校外学習の実施	A	A	
⑤前向きな上宮祭への取り組み	A	A	
(2)①家庭と学校との綿密な連携	A	A	(2)家庭との連携は概ね達成できた。体育館などで定期的に生徒には話をした。
②効果的なＬＨＲや学年集会の実施	B	B	
(3)①『立腰』で授業を始めることによる落ち着いた環境づくり	B	B	(3)概ね達成できたと感じている。ただ、学力差をどのように埋めていくのかが今後の課題である。
②競争することを意識した学習への取り組み	B	B	
③毎日の家庭での学習の習慣の確立	B	B	
④定期考査前の補習の実施	A	A	
※総合進学コースの目標			※総合進学コース 英検３級合格率は 95%、準２級合格率は 43%を達成することができた。
①良き生活習慣の確立	B	B	
②模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値５０を目指す。	B	B	
③高２終了段階で英語検定３級の全員合格、準２級の３割合格を目指す。	A	A	
④学習定着タイムの有効活用	A	A	
※特進コースの目標			※特進コース 英検準２級合格率は 100%、２級合格率は 66%を達成することができた。
①良き生活習慣の確立	A	A	
②模擬試験で、英語・数学・国語の全国偏差値５０を下回らないこと。そして、全国偏差値６０以上を目指す。	A	A	
③高２終了段階で英語検定準２級の全員合格、２級の５割合格を目指す。	A	A	
(4)①学年担当者会議の可能な限りの実施	B	B	(4)学年担当者会議は、年度当初のみであった。
②日常の会話による生徒の情報交換	A	A	

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

特進コース・総合進学コースともに、ここまでは概ね順調に来ている。ただ、最終学年をどのように終えるかが勝負となるので気を引き締め、取り組んでいきたい。最後のセンター試験、昨今の私大の難化をどのように乗り切るかが、３年時の最大の課題である。

部署名	高３学年	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

(1)生徒一人一人が、前向きに受験を意識できる学年作りの実践
(2)生徒・保護者・教員の綿密な意思疎通
(3)国公立大・関関同立・産近甲龍の数値目標達成に向けた戦略的進学指導
(4)学習面・生活面における、担任団・学年担当者・各分掌との連携・意思疎通

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
(1)①日々の中で受験を意識する生徒指導	A	A	受験への意識を高める取り組みはできた
②決してあきらめず前向きに取り組める集団作り	B	B	生徒は一般入試まで意欲的であった
(2)①家庭と学校との綿密な連携	A	B	保護者からの信頼も得ていた
②効果的なＬＨＲや学年集会の実施	A	A	計画的かつ戦略的に実施できた
③生徒・担任間での懇談等による情報交換	A	A	毎日、細かいところまで徹底できた
(3)①『立腰』による落ち着いた環境づくり	C	C	実施に適当なところがあった
②競争することを意識した学習への取り組み	A	B	常に意識を持たせて取り組めた
③自習室利用の推奨、ｽﾀﾃﾞｨｻﾌﾟﾘ利用の推奨など、自発的学習意欲を育てる戦略的意識付け	C	D	自習室の開放が思うように行かなかった ｽﾀﾃﾞｨｻﾌﾟﾘは使用頻度が低かった
④『受験は団体戦』であることの共有	B	C	特進、４組のみ共有できていたと感じる
⑤目標達成のための教員の受験制度研究	B	B	大幅な難化もあり、大学研究はかなり綿密かつ戦略的に取り組んだ
全体として、国公立大２２、関関同立３０、産近甲龍７５の数値目標以上の合格数達成	B	D	しかし、残念ながら目標数値への達成はならなかった。
(4)①学年担当者会議の可能な限りの実施	D	D	担任会とは違い、学年担当者を集める機会は本当に取れなかった。達成度の確認などで後手を踏んだところもあり、もっと綿密にすべきだった。
②日常の会話による生徒の情報交換	C	C	
③学年団として一致した生徒への働きかけ	C	C	

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

全体的に見て、２９期生は有り難くも「成功であった」と周りから評価を頂くことが多いが、３年間持ち上がった中でトータルで考えると、実質的なところでは、生徒のためにもっと何かやってあげられたのではないかと反省している。特に１年生での初動を間違えた自覚はある。確かに入学時に問題のある生徒への対応も学年運営では大切な要素であるが、全体の成長を止めてしまわないよう、もっと気を配るべきであった。

３年生の一年間に限っては、担任の先生方が一致して多く話しあい、それぞれが必要なことをしっかりとこなしてくれたお陰で、戦略的にも緻密な学年運営ができたように思う。特に入試に向けての情報交換や進路指導、生活指導なども含めて、担任がコンセンサスを持って生徒に対応していたので、生徒の全体的な雰囲気も落ち着き、安定した状態で卒業させることができた。

しかし、一方で後手を踏んでしまった所もあった。それぞれの教科の達成状況の確認や、生徒への意識付けが遅れたことも、総合進学コースが目標数値達成に届かなかったという結果に響いたのではないか。特に、年が明けてから伸びてきた生徒が多くいたので、初動の意識付けの遅れが特に悔やまれる。特進クラスにおいても、メンタルの弱さ、苦手教科を克服できないまま受験を迎えた生徒が失敗したが、しっかりとケアしておくべきだった。

部署名	人権教育	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

①　英語の教科書を使って「ﾚｲｼｬﾙ･ﾊﾗｽﾒﾝﾄ」の新しい教材を開発する（高校 3）

②　・分かりやすい人権教育の実践（中学校）

　・被差別部落民や在日ｺﾘｱﾝの人権保障，権利保障の根拠となる歴史的背景をしっかりと教える。（高校）

③　金明秀さんを講師に招いて校内研修をして，教職員の人権意識を高める。（中学校・高校）

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①「ﾚｲｼｬﾙ･ﾊﾗｽﾒﾝﾄ」の問題について考える（高校） ・諸外国では差別的だという理由で公共の場から消えてなくなってしまったのに，日本では差別を批判されることなく，生きた化石のように温存されています。日本にはこれを禁じる国内法がないためです。ﾚｲﾊﾗを防止するためには，在特会らによるﾃﾞﾏやｲﾝﾀｰﾈｯﾄ上の差別的な書き込みに流されないように歴史学習の取り組みが大切である。	B	B	3 年では 英語ⅢC の教材 *Blood is blood* by Charles Drew を例に挙げて「属性」と「業績」を区別させ，属性こそ現代社会において根強く存在している差別に気づかせた。
② 分かりやすい人権教育の実践　（中学校） ・人権教育読本「にんげん」、「私たちの道徳」などを活用して、安心して学校生活を送れる集団づくり。（中学校）	B	A	・中尾健次さんの絵本「もうひとつの日本の歴史」を語りながら，分かりやすく説明できた。 ・「にんげん」、「私たちの道徳」などもよく活用できた。
・被差別部落民や在日ｺﾘｱﾝの人権保障，権利保障の根拠となる歴史的背景を教える。（高校）	B	B	・在日外国人問題，被差別部落問題，いじめ問題など，それらが個々ﾊﾞﾗﾊﾞﾗにあるのではなく，同じ根源を持っている，と理解できる生徒が少しずつ増えてきた。
③ 校内研修の実施。	B	B	・研修会で招いた金明秀さんの講演は，教員にとっては「ﾚｲｼｬﾙ･ﾊﾗｽﾒﾝﾄ」の範囲が広すぎるように思えた。

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

「被差別部落の問題」「在日外国人問題」「障がい者問題」「いじめ問題」を自分たちの問題として考えていけるようにする。これらは，個々ﾊﾞﾗﾊﾞﾗにあるのではなく，それぞれの差別問題の特殊面を正確にとらえると同時に，普遍的なもの（共通面）もとらえなければならない。「部落差別」と他の差別を正確に関係づけて把握できるような Q&A 方式の教材の作成に努めた。

例えば非正規社員同士間に起こった差別発言や英語III C の ***Blood is blood*** *by Charles Drew* の教材を例に挙げて「属性」と「業績」を区別させ，属性こそ現代社会において根強く存在している差別に気づかせた。

またお笑い番組「笑ってはいけない」を教材にして，

❶黒人差別の歴史（ ﾘﾝｶｰﾝ大統領による奴隷解放 ➞「ｼﾞﾑ･ｸﾛｳ法とｱﾊﾟﾙﾄﾍｲﾄ」➞ ｷﾝｸﾞ牧師たちの公民権運動）

❷日本の奴隷（所有・支配）や被差別部落への差別（排除の論理）

❸ 学校での「ﾊﾟｼﾘ」や「ｼｶﾄ」

という 3 つの分野に共通面があることに気づいてくれた生徒が 4 年前よりかなり増えた。

今後もお笑い番組「笑ってはいけない」のような生徒の身近にある分かりやすい例を挙げて Q&A 方式の教材を作成するように取り組んでいきたい。

部署名	保健管理	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成30年度の重点目標（4月末）

１.保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る
２.自立的な健康の保持・増進の確立をめざした保健教育の実践
３.健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化
４.学校保健組織活動の円滑な推進

２．平成30年度の取り組み内容（4月末　年度末評価は3学期終業式）

内　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
１、保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る ①　配慮を必要とする生徒の把握と学校保健情報の共通理解 ②　救急処置の体制整備と迅速な対応、けがの予防 ③　定期、臨時の健康診断の円滑な実施と事後処置の充実 ④　学校感染症の予防と発生時の迅速な対応	 A A B A	 C A B A	・保健室の機能を生かした対応と支援を行うことができたが、生徒本人、保護者、担任との情報共有にとどまらず組織としての共有が課題である。 ・各健康診断の事後処置で未受診者への勧告を行い100%の受診率に近づけるよう努めた。
２、自立的な健康の保持・増進をめざした保健教育の実践 ①心身の健康課題を見出し、発達段階に応じた個別・集団的保健指導の実践 ②行事に合わせた保健指導の充実 ③保健室ホームページ作成企画	 A A A	 A A A	・健康課題や感染症情報を早期に把握して、睡眠、麻しん、風疹予防接種勧奨、インフルエンザ予防等、予防啓発、保健指導に努め、その成果は得られた。特にHealth Care Roomとしてホームページを立ち上げ、瞬時に様々な情報発信を発信することができた。
３、健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化 ①生徒、保護者が相談しやすい環境づくりとその問題の背景・要因を的確に把握し、全教職員と情報交換を図る ②SCと生徒相談、関係職員との連携、共通理解を図る	 A A	 B A	・健康相談活動はSC等関係職員と情報共有等図り、生徒間トラブルの解決、学校生活の充実に努めた。
４、学校保健組織活動の円滑な推進 ①学校保健委員会の組織的運営の確立（学校保健計画作成・実施） ②生徒保健委員会の主体的な活動のサポート（検診準備及び介助、啓発活動、心身の健康に関する情報発信）	 B A	 B A	・学校医や保健所等との専門的機関との連携は充実していた。 生徒保健委員会で本校が抱える健康課題に対して学期ごとのテーマに応じた取り組み、実践を活発に行ったが、生徒が主体的に取り組めていなかった。

３．今後取り組む内容（3学期終業式）

１、保健室の機能を充実し、保健管理の組織的推進を図る

今後も学校保健情報を瞬時に把握して、情報発信に偏るのではなく、各分掌、組織で情報共有できるようにコミュニケーションを図り、積極的にはたらきかけていく。また、生活習慣に着目して、けがや心身の病気の未然防止、予防教育に努め、組織的推進を図っていきたい。

２、自立的な健康の保持・増進をめざした保健教育の実践

本校の生徒が抱える心身の健康課題を分析して、生徒一人ひとりが自身の健康課題としてとらえ、将来に向けた自立的健康教育につなげられる、アクティブラーニング要素も取り入れた企画を検討していく必要がある。また、保健室ホームページ「Health Care Room」や「Health Care News」においてもICTの活用を推進・充実をめざす。

３、健康相談活動の充実と各分掌と連携、情報の共有化

SCはもとより、様々なアンケート結果や生徒の言動にも注意を払い、情報の共有化、組織的連携を強化して、不登校、生徒間トラブルをゼロに近づけていきたい。

４、学校保健組織活動の円滑な推進

学校医等を含む保健委員会の体制を整備と強化して、生徒保健員会への助言・指導へのはたらきかけを充実させる。生徒保健委員会は生徒の自主性、生徒からの問題提起と発案、企画を行い、生徒の主体的な取り組み、積極的な活動ができるように、生徒会や各委員会と協力した運営を目指す。

部署名	図書教育	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

①図書室の運営管理の充実
②図書の充実
③読書活動の推進
④利用生徒数の向上

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①図書室の運営管理の充実			
⑴ 開館時間の安定	A	A	・予定通りの時間で開館・運営できた
⑵ 図書委員会の活用	D	D	・委員会を活用することができなかった
②図書の充実			
⑴ 購入図書の選定および購入	C	C	・学校全体の意見を反映することができなかった
⑵ 希望図書への配慮	D	D	・希望図書への配慮ができなかった
③読書活動の推進			
⑴ 読書の啓発	C	C	・図書便りでの啓発のみに終わった
⑵ 図書委員会の活用	D	D	・委員会を活用することができなかった
④利用生徒数の向上			
⑴ 図書室利用の推進	C	C	・積極的には推進できなかった
⑵ 図書委員会の活用	D	D	・委員会を活用することができなかった

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

今年度は上記のように、図書購入において学校全体から希望を聞く機会を持てなかったこと、図書委員会を活用することができなかったことが反省点として残りました。読書啓発においても学校全体を使った啓発活動ができませんでした。

生徒の出入りの多い生き生きとした図書室を運営できることが今後の課題と言えます。定期考査前などは席がいっぱいになるほどの利用がありますが、その期間が終わると急に少なくなる繰り返しの１年でした。

校内の各部署からの協力も得た、学校全体でのバランスの取れた図書館運営が今後の取り組みになると思います。

ですから、今後は学校全体での意見を収集する取り組みが必要だと思います。

部署名	広　報	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

①本校の取り組みをより効果的に見せる方法の検討。
②ブログのアップ回数を２日に１回のペースを目指す。
③学校案内のフルモデルチェンジ
④卒業生に対する広報活動の検討。

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①本校の取り組みをより効果的に見せる方法の検討。（特に女子に有効な見せ方） ※目標として、男女比率の女子の比率をあげる。	B	C	・男女比率を上げることができなかった。
②ブログのアップ回数を２日に１回のペースを目指す。 ※広報係のメンバーのブログに対する意識の向上 ※視聴滞在時間の長いホームページ作成の検討	B	C	・ブログの更新回数を増やすことができなった。
③新しいコンセプトの学校案内の作成。 ※他校学校案内の研究 ※プレゼンテーションの開催	A	A	・学校として、業者に作業全般の確認をおこなうことができた。
④卒業生に対する広報活動の検討。 ※同窓会との連携	B	B	・今年度は学校案内に卒業生のページを作ることを検討していたが、実現できなかった。

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

①ブログの更新回数アップを目指す。

②ホームページの更なる改良。（利便性の向上・バナー等の精査）

③道路沿いの、横断幕の利用方法についての検討。

④ＳＮＳの活用の検討。

部署名	業務推進	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

①　成績処理の効率化
②　個人情報の管理の徹底
③　環境の充実
④　業務軽減への方策

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①　成績処理の効率化			
・　成績原票印刷の再検討	A	A	・成果はあった。次年度から導入する。
②　個人情報の管理の徹底			
・　定期的な個人情報の安全管理に対する教員への注意喚起	C	C	・個別対応にとどまった。次年度は職員会議などを活用したい。
・　個人データの管理の徹底	B	B	・一定の成果はあった。
③　環境の充実			
・　教員へのノートパソコンの貸し出し	D	D	・実施しなかった。
・　ファイルサーバ内のフォルダの整理およびサーバの分散化	B	B	・一定の成果はあった。
・　データのバックアップ体制の充実	A	A	・成果はあった。
④　業務軽減への方策			
・　分掌内での情報の共有化の徹底	C	C	・十分とは言えなかった。
・　効率的な業務の分担の実現	B	B	・一定の成果はあった。
・　作業マニュアルの改訂	C	C	・あまり進まなかった。

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

①　共有文書等のデータによる活用
・　各種書類の印刷量の削減およびデータの活用

②　個人情報の管理の徹底
・　定期的な個人情報の安全管理に対する教員への注意喚起
・　個人データの管理の徹底

③　環境の充実
・　ファイルサーバ内のフォルダの整理
・　個人ＰＣへのセキュリティソフトの導入の徹底

④　業務軽減への方策
・　分掌内での情報の共有化の徹底
・　効率的な業務の分担の実現
・　作業マニュアルの改訂

部署名	学校評価	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

1．平成30年度の重点目標（4月末）

①学校評価に関する企画･立案・実施
②学校評価の報告書の作成・提出
③授業アンケートに関する企画･立案･実施
④学校関係者評価委員会の企画・立案・実施

2．平成30年度の取り組み内容（4月末　年度末評価は3学期終業式）

内　　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①平成30年度各部署からの報告書の資料作成			
・各部署からの重点目標の確認	A	A	・確認することができた
・各部署からの中間評価の確認と点検	A	A	・確認・点検することができた
・各部署からの年度末評価の点検と資料作成	A	A	・点検・資料作成することができた
②平成29年度の学校評価の報告書のホームページ用資料作成	A	A	・資料を揃え公開することができた
③授業アンケートの実施とその結果の有効活用の検討	B	B	・実施することができた。有効活用においては更なる検討が必要である
④学校関係者評価に対する資料作成	A	A	・資料作成し、関係者評価を実施した

3．今後取り組む内容（3学期終業式）

今年度分においてはほぼ予定通りの内容を進めることができた。

ただ、資料を活用していく上では、まだまだ色々な新しい観点での活用の仕方があると考えられる。

現状での活用法で十分であるとは言えない。そのため、現状のやり方で十分かを検討する機会を持たなければならない。

来年度は、３年に１度の保護者アンケートを実施する予定である。そして、労働者の働き方改革が始まる４月以降は、その部分の変化を踏まえたアンケートの取り方も考えなければならない。

当然質問項目にも若干の変更が必要となるはずである。

部署名	事務室	担当者	

「よりすばらしい上宮太子中・高にするために」

１．平成 30 年度の重点目標（4 月末）

①適切かつ効率的な事務処理と質の維持
②企画・運営に関する事務(特色のある学校づくり)
③校内・教育環境のさらなる整備

２．平成 30 年度の取り組み内容（4 月末　年度末評価は 3 学期終業式）

内　容	年度末評価		
	遂行度	達成度	成果と課題
①適切かつ効率的な事務処理と質の維持			
・個々の業務を他の職員とコミュニケーションをとりながら効率的かつ確実に進めていき、組織的な業務を進めていく。	A	A	・コミュニケーションをとり円滑に業務を進めていくことができた。
・個人情報に関わる資料の慎重な取り扱い、また、その他の重要資料に関しては数人で確認しミスを無くすように徹底する。	B	B	・個人情報の慎重な取り扱い、確認等によりミスを最小限に抑えることができたが、次年度はミスを無くすようにする。
・普段の教職員とのコミュニケーションにより子どもたちや保護者の意見を聞きながら子どもたちや保護者が安心できるような事務室としての役割を果たす。	A	A	・特に配慮が必要な家庭への対応等、教職員との連携により確実な対応ができた。
・生徒、保護者への対応についても相手の立場に立ち親切かつ丁寧さを心がける。	A	A	・丁寧な対応ができた。
・稟議一覧を教職員の誰でも閲覧できるように公開する。	C	B	・今後、電子稟議として他の教職員も閲覧できるようにするため上宮学園本部の事務室と協議し進めている。
・天王寺事務所との連絡を密にとり相互の連絡ミスを防ぐ。	A	A	・上宮学園本部の事務室と密に連絡を取り合い、ミスを防ぐことができた。
・今まで慣例的に行っていた業務・作業の内容と工程を適正であるか見直し、向上を図る。不必要であれば廃止も検討する。	B	B	・さらに改善すべき点があるので見直していく必要があると感じる。
②企画･運営に関する事務(特色のある学校づくり)			
･「特色ある学校づくり」に対応するためにさまざまな学校の情報収集や情報発信をする。	B	B	・HP や学校案内、説明会等でさらに本校の特色を発信していきたい。
・職員会議の参加等により具体的な情報を把握する。 また、個々の教職員の活動を結び付け、組織的な学校運営を行う体制を整える。事務職員も他の教職員の教育活動と連携・協働しながら活動し条件整備を行い、事務の効率化や改善を進めて学校運営に携わっていく。	B	B	・会議の参加等により、教育活動・方針の把握、また HP の活用、入試業務の効率化等を改善することができた。今後はさらに質の高いものにできるように努めたい。
③校内・教育環境のさらなる整備（昨年度より継続）	A	A	・全教室の黒板をホワイトボードに変更し、さらに ICT 機器を導入した。地震・台風等の自然災害が多く発生したが、施設・設備等の点検を徹底して行い、破損個所に対して速やかに対応できた。

３．今後取り組む内容（3 学期終業式）

今後さらなる少子化が進み、学校経営は難しくなっている。事務職員も必要な事務処理に従事するだけではなく、積極的に学校の課題を把握し、その課題に対する改善策の提案・実現を考えていく必要があると感じる。このため、教員と同じ方向を見据え、同じ目標を共有する必要があり、会議の出席は必要である。しかし、窓口対応等の業務の関係で全員が会議に出席することができないので、日々のコミュニケーションをただの意思疎通だけではなく質の高いものにしていきたい。今後も現状に満足することなく、学校や子どもの為に業務を進めて行きたい。

平成 30 年度授業アンケート　分析

1．実施時期

　　高等学校　　11 月　9 日

　　中 学 校　　11 月　16 日

2．対象学年

　　全学年

3．グラフについて

各項目に対して、「高い評価」・「やや高い評価」・「やや低い評価」・「低い評価」の 4 段階で評価をし、「高い評価」と「やや高い評価」を合わせた評価を肯定的評価と呼んでいます。

教科別肯定的評価グラフ

各教科に所属している教員の肯定的評価の割合を示しています。

質問別肯定的評価グラフ

「授業マナー」…あなたは、この授業でマナー（私語・いねむり等をしない）を守っていますか？
「授業参加」……あなたは、自分なりの目標を持って、この授業に積極的に参加していますか？
「家庭学習」……あなたは、この授業に必要な家庭学習（予習・復習等）をしていますか？
「話し方」………先生の話し方や説明の仕方はわかりやすいですか？
「板書等」………先生の黒板・プリント等の使い方（体育・芸術等は実技指導）は良いと思いますか？
「要点強調」……先生の授業は、重要なところが強調されていますか？
「授業難度」……授業の学習内容のレベルは、ちょうど良いと思いますか？
「授業速度」……授業を進めるスピードは、ちょうど良いと思いますか？
「理解確認」……先生の授業は、生徒の理解を確かめながら進められていますか？
「質問発言」……先生は、生徒の質問や発言を促し、ていねいに対応していますか？
「授業展開」……授業の進め方（組み立て）は、興味関心を引き、学習意欲をわかせると思いますか？
「教員熱意」……先生の授業に熱意を感じますか？
「公平対応」……私語などに対して適切な対応が取られ、公平で思いやりのある授業ですか？
「満足度」………この授業は、あなたにとって良い授業だと思いますか。

この内、「授業マナー」・「授業参加」・「家庭学習」は生徒の自己評価になります。

4．分析

平成 30 年度は 11 月に実施した。約 6 ヶ月間授業を実施して、生徒がどのような受け取り方をしているか、また、どこに問題点があるかを確認し、その後の授業に反映できるように行った。

ここに載せたグラフは、全教員の平均であり、かなり経験豊富な教員から経験がまだ少ない教員まで含まれている。各教科でお互いに情報交換をしながら、全体的にレベルアップをしていけるように今後も進めて行く。

【高等学校】

教科別肯定的評価グラフにおいて、各教科とも８０％以上になることを目標としている。今年度も全教科で目標の８０％はクリアできた。過去３年のグラフを比較すると、今年度もほぼ同じ評価かやや高い評価を受けている。特に国語、社会、英語、情報の評価は前年度と比べると高い評価になった。今後とも、より高い評価になるように教科で検討を重ねていきたい。

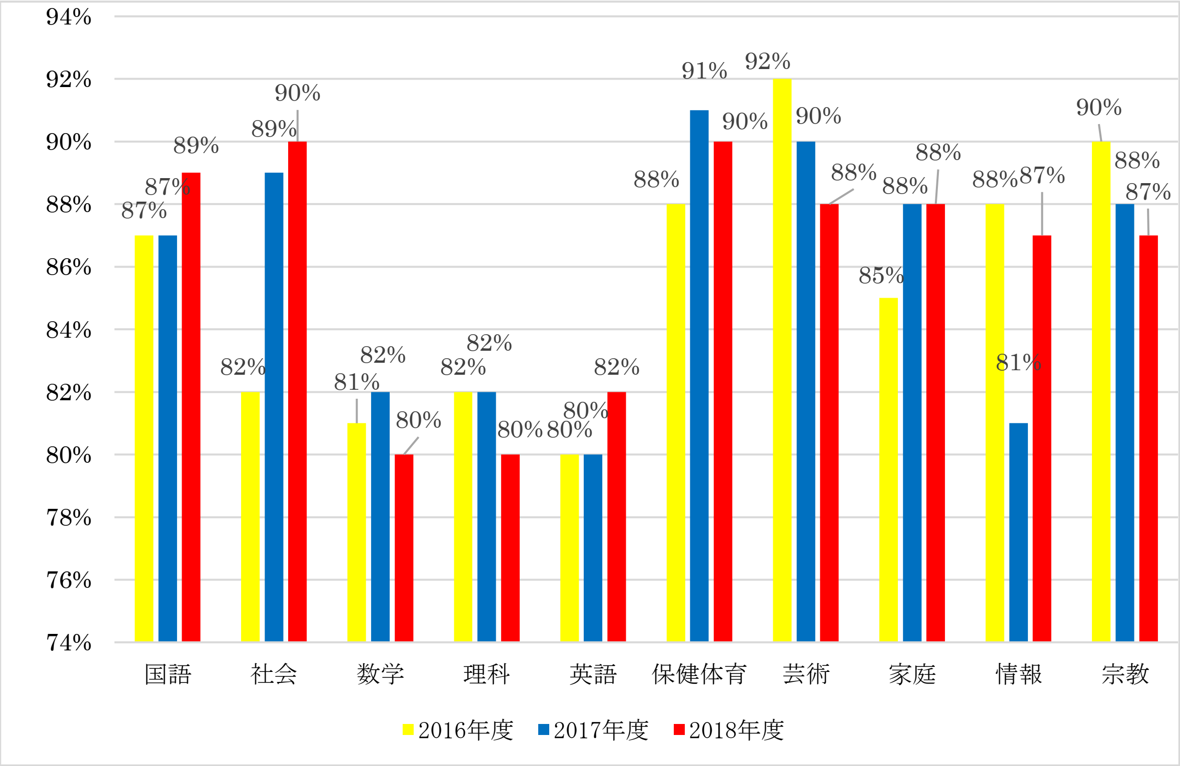
質問別肯定的評価グラフにおいては、昨年度と同様に今年度の重点目標として家庭学習の習慣を掲げた。数値的には例年並で高いとはいえないが、前年度よりは向上ができた昨年度と同数値となり、家庭学習の習慣が定着してきていると考えられる。また、「授業展開」の評価は他の項目に比べると、例年評価の数値が低くなるが、この項目でも今年度は過去最高の結果を出すことができた（自己評価の「家庭学習」は実技教科を含んだ数値であるので４０％以上が目安になる）。今後、各教科ともどのように改善をすればより高い評価になるか検討を重ねていきたい。

【中学校】

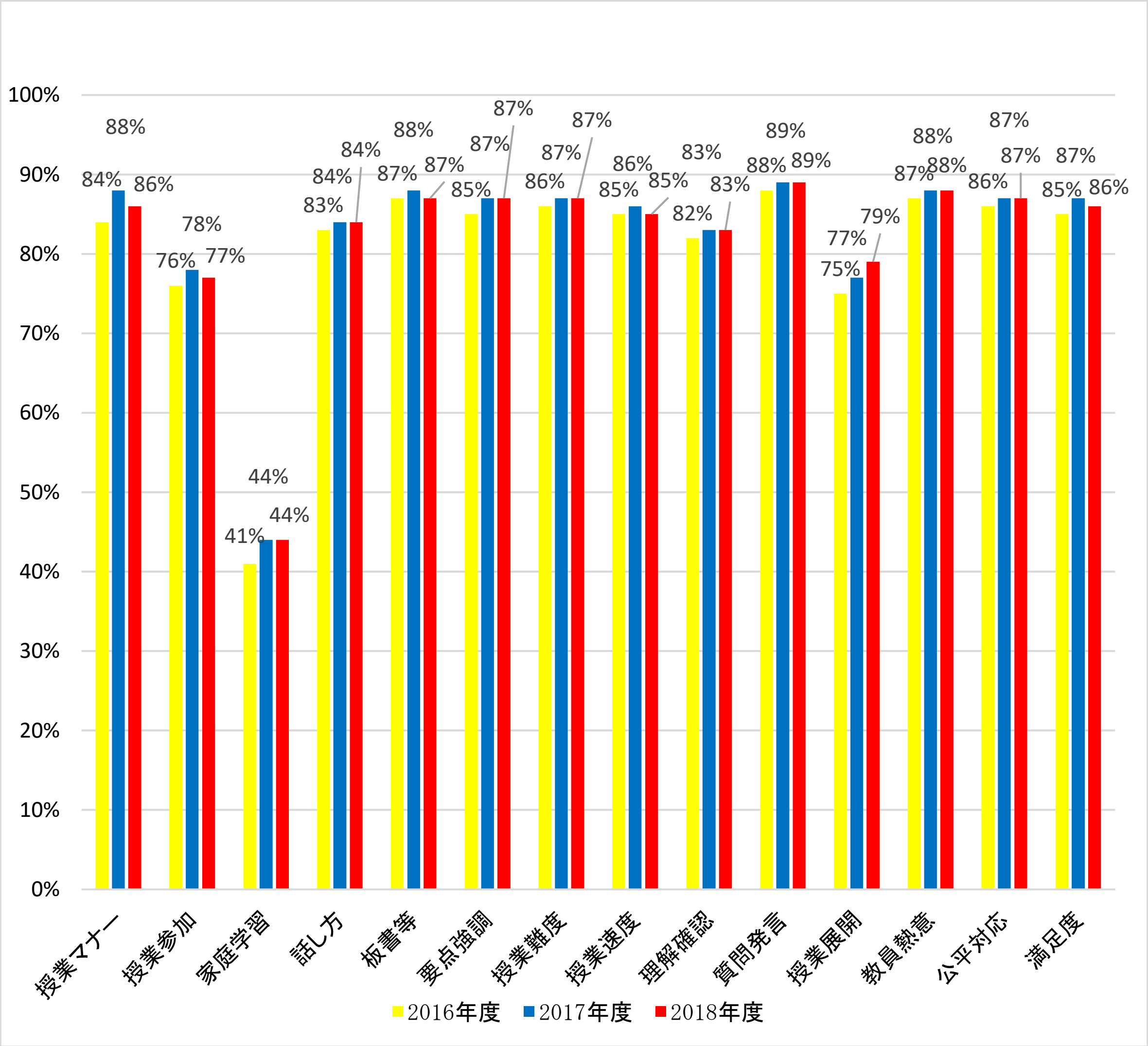
教科別肯定的評価グラフにおいて、例年高い評価であると考えられるが、今年度は全体的にやや下降傾向が見受けられた。特に、国語、数学、保健体育、英語においては５ポイント以上の落ち込みがあった。ただ、高等学校に比べると人数が少ないので、数値の変動に大きく左右される面は否定できないため、５ポイント以上の下降だからといっても高校の数値程の違いは出ていないと考えられる。しかしながら、数値的には下降しているため、今後より高い評価になるようにはどうすればよいのかを教科で検討していきたい。

質問別肯定的評価グラフにおいて、「家庭学習」の自己評価は昨年同様やや低下したままであった。中学校から学習習慣の定着をもっと図る必要があると考えられので、いかに低学年から家庭学習の習慣を身につけさせていくか、継続的に検討をしていきたい。

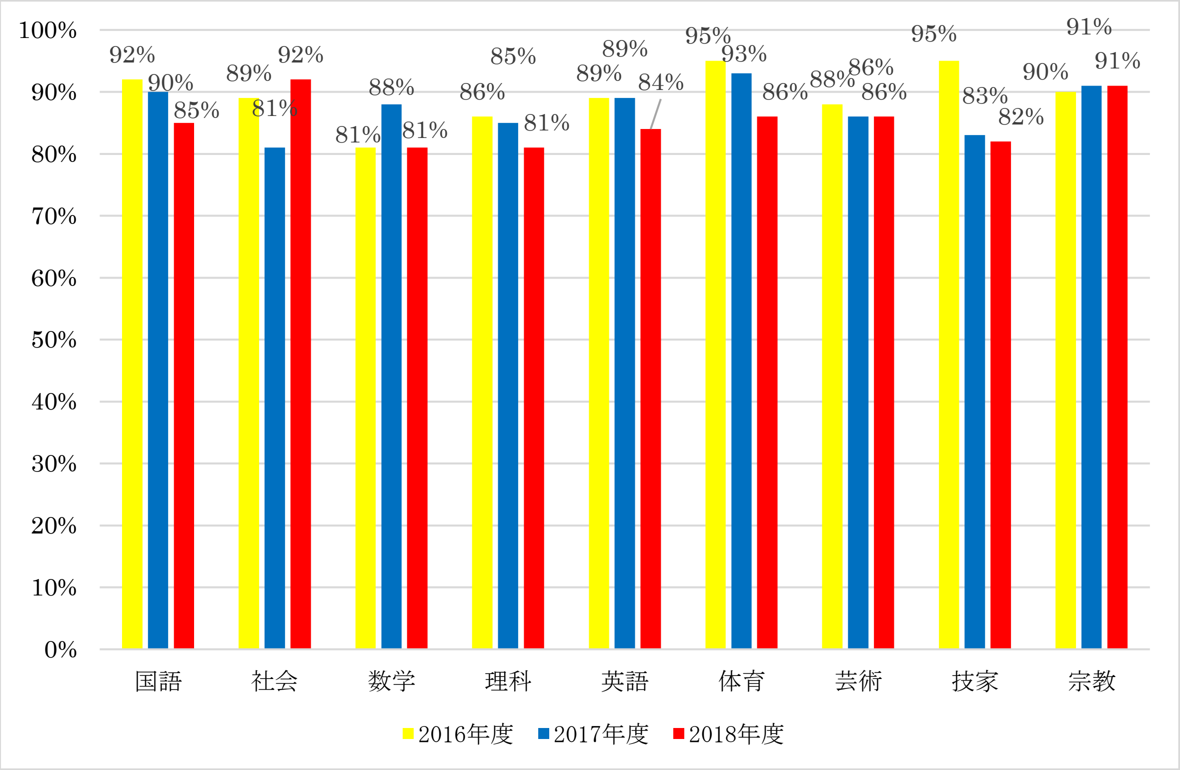
平成 30 年度　上宮太子高等学校　授業アンケート



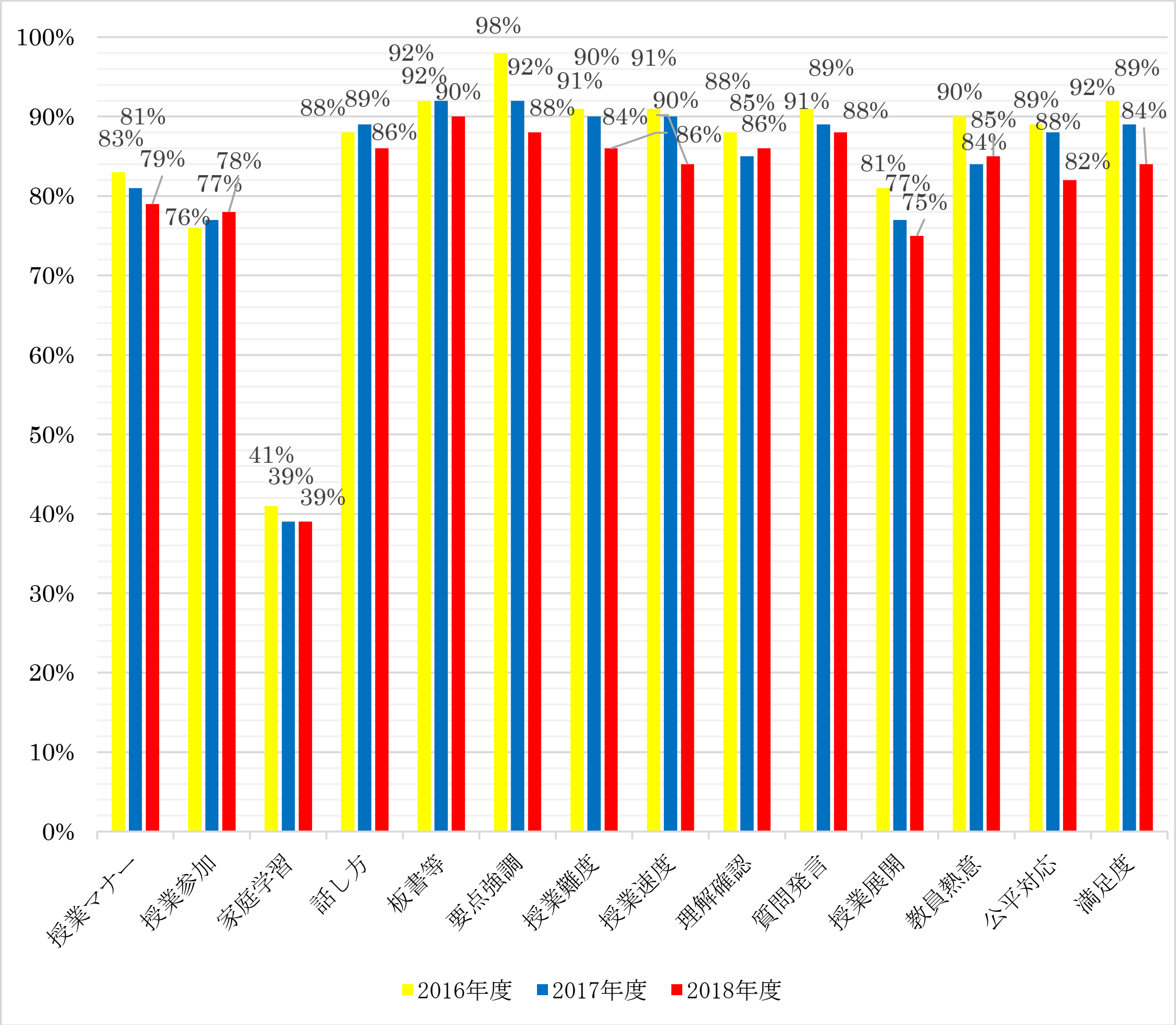
質問別肯定的評価



平成 30 年度　上宮太子中学校　授業アンケート



質問別肯定的評価



平成30年度　学校評価に関する報告書

上宮太子中学校・高等学校

1．平成30年度年間目標

平成30年度の年間目標として、「浄土宗の教えを基盤としながら、卒業後の人生に役立つ人づくり、人間力の向上という前提のもと、基本的な生活習慣を身に着けたうえで学力を向上させ、各コースからの大学合格者数の数値目標、英検の取得目標を実現させ、共学教育を安定させ、各部署それぞれが連携して職務に取り組み、各教科が授業力の向上のために研究に取り組むこと」を掲げた。

2．各部署の目標と評価

①教務関係

【重点目標】

1. 教務運営システムの整備・効率化
   - 行事の着実な実施と改良
   - 教務各係の業務内容と資料の点検整備
   - 教務内規の精査、改定、整備
   - 各部署との連携強化
2. 有効な指導体系の継続検討
   - カリキュラム改良の検討
   - シラバス改良の検討
3. 上宮学園中学校との連携事項の検討

【評価】

- 重点目標の実施に関しては先生方の協力により進めることができたが、新たな改良点も見受けられた。
- カリキュラム改良を進めることができた。
- シラバス改良に関しては現在検討中ではあるが、まだ結論には至っていない。
- 上宮学園中学校との連携は前向きに実施できた。
- 全体としては、今年度は概ね予定通り進めることができた。次年度の課題として、カリキュラムの更なる改良と、コースの改良が必要と考える。また、今後国際理解教育に関して、社会の動きに対応しながら、積極的に進めるべきだと考えている。

②生徒指導関係

【重点目標】

1. 悩みを持つ生徒が、楽しく学校生活を送れるようにする
2. 生徒会活動、委員会活動、広報活動の活性化と研究
3. 不登校、配慮を要する生徒への取り組み強化の継続
4. 生徒の道徳意識、規範意識の向上
5. 生徒の愛校心の向上

【評価】

・カウンセリングについてはスムーズに対応できた。この現状のままさらに充実をさせたい。

・生徒会役員が中心となって、企画段階より生徒の意見が反映された行事ができた。
委員会としての動きが増え、活性化が見られた。太子ニュースは定期発行がでた。
太子町時代行列、ふれあい太子 2018 に参加。

・教員の指導への認識は、徐々に浸透しつつある。生徒の規範意識を高めるために教員が更にかかわっていく必要性を感じる。

・クラブ生を中心とした学校の活性化に取り組む必要がある。クラブ代用者会議などを積極的に実施する等、変革が必要とも考える。

③進路指導関係

【重点目標】

1. 学力の向上
   ・読書指導推進
   ・家庭学習推進
   ・模試の事前・事後指導、結果分析
   ・Classi を活用したメタ認知力の育成
2. 戦略的改革
   ・時間短縮面での効率の高い進路指導体制構築
   ・大学入試制度改革の研究と啓蒙
   ・アクティブラーニングの研究と啓蒙

【評価】

・組織的な読書指導の連携をもっと進めたい。

・家庭学習は、担任を通したアプローチがあれば、更に効果が出たと思われる。

・模試分析を更に進め、活用できるようにしたい。

・Classi を活用した取り組みを始めたので、更に計画的に活用するようにしたい。

・中学や高校１年生に関しては基礎学力の向上に取り組み、「思考力」「判断力」「表現力」を育むための探究活動を進め、「主体性」を引き出したい。

・高校２年生、３年生に関しては、更なる「進学実績の向上」に取り組む。各教科・各学年との連携を深め、生徒の学力向上に努める。

・効率の高い進路指導体制を作る。各教科、各学年に対してリーダーシップを発揮し、全人教育を通して進学実績を向上させる。

④入試対策関係

【重点目標】

1. 高校入試の受験者数の安定化・増加のための活動
2. 上宮学園中学校の広報活動
3. 情報の収集・共有化
4. 今後に向けての対応策の検討

【評価】

・高校入試における受験生は昨年より少し減少した。専願者数が減少したが、昨年の課題であった併願者数は増加した。ただ、入試結果を見ると、特進コースの受験生のレベルが上昇した。

・上宮学園中学校の広報活動では、天王寺校との連携が不可欠である。できる限り連携を取ってきたが、まだまだできることは多い。引き続き連携を強化し、上宮、上宮太子共同で募集活動を展開していく。

・学校全体への情報の共有化は満足のいくものではなかった。発信の共有する仕組みを考える必要がある。

・今後の更なる少子化に向けて、人口が減少しても安定的に受験生を確保できる魅力ある学校づくりを行うとともに、効果的な広報活動を強化していかなければならない。学校を知ってもらう魅力的なイベントや告知活動など、具体的で効果的な方策を練っていかなければならない。

⑤教科

【重点目標】

・学力、指導技術の向上
・教科会を通じての教科内研修の充実
・授業アンケートを参考にした授業改善および授業力の向上
・大学入試問題等の研究推進及び受験対策への活用

【評価】

・複数の教科では、教科会で学力向上についての意見交換を行ったが、まだまだ時間的に突き詰めることができず、具体的な部分までは進めなかった。

・昨年度に比べ、理科以外の教科の授業見学は頻繁には実施できなかった。また、各教員の時間的な余裕不足から、外部研究会への参加を通じての授業法向上の研究もあまり実施できなかった。

・各教科とも、授業アンケートの結果を踏まえ、教科会でより良い授業をするための改善点を検討している。

・大学の入試問題の分析を各教科で具体的に組織的に実施した。

・実技教科においては、その教科の特性を鑑み、体力の向上、技術の向上、協調性、素晴らしい感性の育成等の目標はほぼ達成できていると考えられる。

⑥学年

【重点目標】

1. 各学年に応じた基本的生活習慣及び学力定着の確立
2. 学年担当者間、保護者との連携
3. 自立、責任感を持たせる取り組み

【評価】

・各学年とも年度当初の目的はある程度達成できた。基本的生活習慣の確立については、

学年を通じて今後も取り組んでいきたい。
・学年内での情報共有については、今年度も進展したと思う。さらなる方法を今後検討していく予定である。
・将来を見据えた大学進学に関しては、各学年とも、昨年度以上に意識を持って取り組んだ。ただ、まだまだ生徒が実際に意識する時期が遅く、もっと早くに意識ができる工夫の必要性がある。
・中学においては、自立に重点を置いた。ただ、1クラス内に学力差がありすぎる現状があり、どこに焦点を合わせるのかが判断しづらいという現実がある。
・今後とも各学年の達成目標を意識した指導の確立を目指していきたい。

⑦その他

【重点目標】

1. 新教材を使った、解かりやすい人権教育の実践
2. 保健管理の組織的推進、自立的な健康の保持、増進
3. 読書活動の推進
4. 新しい学校案内の作成、ホームページの改善
5. データ処理システムの効率化、業務軽減への方策
6. 校内整備

【評価】

・英語の教科書教材「レイシャル・ハラスメント」を使用し人権教育を行った。また、Q&A 形式での教材作成に努めた。
・今後も更に、保健室から保健情報を発信し、各分掌、組織が情報共有できるように働きかける。
・図書教育においては、安定した図書室運営はできたが、委員会活動を積極的に活用する読書活動を行うことができなかった。今後はこの面を充実させていきたい。
・広報では新しい学校案内作成ができた。今後はホームページのブログアップ回数を更に増やし、学校の取り組みを外部に発信させたい。
・次年度からの成績関係書類の情報処理化の充実のための整備ができた。
・全教室のホワイトボード化、ICT 機器の導入が実現した。また、破損個所に対しても速やかに対応できた。

3．授業アンケート

今年度は2学期に1回実施し、各教員の授業力の向上を図った。資料については別紙に記載している。

平成30年度に関する学校関係者評価報告書

上宮太子中学校・高等学校
学校関係者評価委員会

１．平成30年度自己評価結果について

平成30年度の学校評価の取り組みおよび自己評価の結果についての説明を受ける前に、学校評価の趣旨と学校関係者評価の目的についての説明があった。

まず、平成30年度の年間目標として「学校祖・法然上人のお教えを基盤としたうえで、卒業後の人生に役立つ人づくり、人間力の向上という前提のもと、基本的な生活習慣を身に着けた上で学力を向上させること、各コースからの大学合格者数の数値目標・英検の取得目標を実現させること、共学教育を安定させること、それぞれの部署が連携して職務に取り組むこと、そして各教員が授業力の向上に向けて研究に取り組むこと」を掲げ、そのもとで各部署が年間目標を作成し、それに向けて実施できた内容と課題の説明があった。その後、その実施した内容に対しての“遂行度”/“達成度”の観点を踏まえた評価基準による分析をもとにした自己評価結果が提示された。ここでは、10月の中間評価を経て、年度末に最終的な評価がなされている。結果はあくまでも自己評価であるため、部署によっては若干の評価基準の差異が生じている面も存在する。

「授業アンケート」については、例年11月に全生徒を対象に実施されていることが説明され、その結果に基づいた資料の説明と分析結果が提示された。教科によっては、若干評価に偏りが見受けられるが、結果を真摯に受け止め、今後、教科での検討に利用されるものである。

２．平成30年度自己評価結果についての評価

「各部署の目標と評価」に関しては、各部署ともに細かく適切な目標設定をし、各項目に対して適切に対処していると評価できる。また、各部署間の連携も前年度に続き更に改善しようとしているようだ。ただ課題を進めていくうちに、継続的に改善すべき課題、時間不足が原因で達成できなかった課題、新たに考慮する課題も出てきているようなので、今後とも研鑽をして、より良い学校にしてもらいたい。

「授業アンケート」に関しては、先生の熱意や生徒の満足度の項目が前年度以上に高いことについては評価できる。今後も、もっと学びたいと思うような授業の評価を高めてもらいたい。教科間で

若干の評価の偏りがあるようなので、分析を踏まえて、更なる取り組みに期待したい。以前から、熱意のある先生が非常に多いので、授業アンケートの結果を参考にしながら、今まで以上の取り組みを期待している。

進路指導面では、一人ひとりの生徒の希望進路実現のための学力の向上を、一層推進できる進路指導体制を構築することを重点目標とし、その上で、教材の活用法から模試の活用法、ICT 教育の活用を取り入れた家庭学習の在り方に至るまでをまとめていこうとされていることは評価に値する。
ただ、今年度の評価については、まだ十分に満足できる結果には到達していないようなので、今後も引き続き、この整備を進めていってもらいたい。また、教員間の大学入試制度改革やアクティブラーニングに関する教員研修参加を推奨されていることは、現況でのあり方として好ましいことと言える。更なる教員間の周知徹底に取り組んでいかれるよう望むところである。

生徒指導面では、全教員による一律指導を目指した情報共有の取り組みは評価できる。
そして、配慮を要する生徒への取り組みを強化され、スクールカウンセラーから各学年担当者に至るまでの連携強化が、スムーズにできたということは評価できるものである。また、生徒会役員による生徒会活動を活発に利用され、生徒自らが主体的に行動する意識を学校全体で共有されていることは大変好ましいといえる。今後は、クラブ生も生徒活動の中心に参加させていく学校活性化の必要性も感じられているということなので、この面も取り入れられた更なる生徒主体の生徒活動となっていく場を期待している。

各学年、各教科での指導面でも、前回同様に授業アンケートの結果を考慮され、教科内での情報共有に重点が置かれたようで、教員間の意識の統一を強化されたことは評価に値する。こうしたあり方は、各分野それぞれでのレベルの底上げにつながり、今後に期待できるものとなろう。また、中学では特に自主性の醸成に重点を置き、保護者との連携を強化することで成果が出ていることは好ましいと言える。そして、ベテラン教員と新任教員との情報共有を今後も続けることで、一律の授業効果が期待できる環境を整えられたい。

以上の他に、学校からの保護者への連絡方法での現行のネット配信のあり方に関する更なる要望、学校設備面での要望、生徒の学習面での要望、学校説明会での PR 項目の提案、同窓会の活動内容のあり方などの意見が話し合われ、今後の検討事項、参考事項とした。